



Internship Report 2025



同志社女子大学
キャリア支援部 キャリア支援課
<https://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

○京田辺キャンパス

〒610-0395 京都府京田辺市興戸
TEL. 0774-65-8415 / FAX. 0774-65-8449
[E-mail] career-t@dwc.doshisha.ac.jp

○今出川キャンパス

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
TEL. 075-251-4135 / FAX. 075-251-4276
[E-mail] career-i@dwc.doshisha.ac.jp

Always rising to a new challenge
いつの時代も、新しきを生きる。



同志社女子大学
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Founded in 1876

2025年度インターンシップを終えて

キャリア支援部

部長 影山 貴彦

現代社会では、環境・気候変動、経済格差や労働問題といった重要な課題に、国際社会として取り組むことが求められています。さらに、人工知能技術（ＡＩ）や情報通信技術（ＩＣＴ）の急速な進展に対応する人材の育成、及びその倫理観の醸成が急務です。人類の生存と経済活動の両立は不可欠であり、その最適解が求められています。現在も、国際情勢の緊迫化による世界経済の不透明さや円安、物価高、人材不足など様々な問題が発生しています。

大学は、学生たちがこのような現代社会へ円滑に参画できるよう、社会的・職業的に自立し続けられるための教育とその環境づくりに寄与することが求められています。

本学のキャリア教育は、主体的に自らを成長させ、他者や社会に貢献できる人物の養成を目的に、授業や様々なプログラムの充実に全学体制で取り組んでいます。

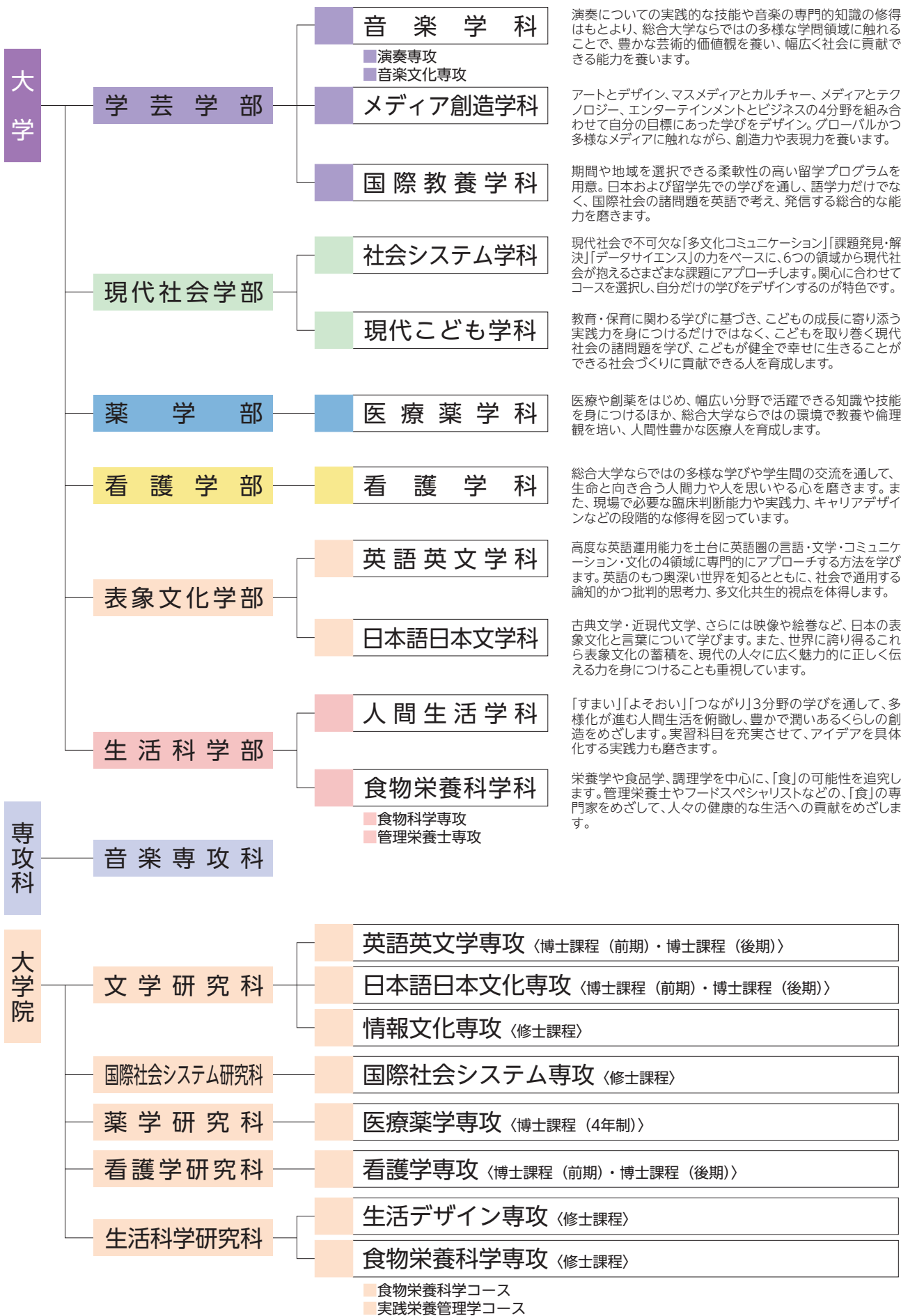
インターンシッププログラムは、職業現場において、人と共に学び、人から学ぶことで、創造力、問題発見・解決力を高めることが期待できます。自らの将来を見据え、確かな職業観を醸成し、社会的・職業的自立を促すために最も有効であると考えています。本学では、1999年度から正課科目として「インターンシップ」を開講しています。今年度も、多くの企業・自治体・団体の皆様のご協力を得て、40名の学生が参加することができました。このインターンシップ実習を効果的に行うための事前指導講義、実習の成果をこれからの人生に活かすための事後指導講義も実施しております。

今後、当プログラムの更なる発展・充実を図る所存ですが、実習先の皆様のご協力なくして、その実現を為し得るものではありません。皆様におかれましては、本冊子をご一読いただくとともに、本学のインターンシッププログラムに対し、一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。最後になりましたが、ご多用の中、快く受け入れ、ご指導を賜りました企業・自治体・団体の皆様に心から感謝し、御礼申し上げます。

2026年 2月



同志社女子大学 学部学科・大学院



2025年度 同志社女子大学 インターンシップレポート

CONTENTS

● 2025年度インターンシップを終えて	
● インターンシップ制度について……………	2
● 年間スケジュール／ 事前・事後指導講義概要……………	3
● 実施状況……………	4
● 実習先一覧……………	5
● インターンシップ I A・I B 体験レポート…	7
・学芸学部 音楽学科 メディア創造学科	
・現代社会学部 社会システム学科 現代こども学科	
・表象文化学部 英語英文学科 日本語日本文学科	
・生活科学部 人間生活学科 食物栄養科学科	
● オープンインターンシップ (大学協定型) 体験レポート…	28
・学芸学部 メディア創造学科	
・現代社会学部 社会システム学科	
・表象文化学部 英語英文学科	
・生活科学部 人間生活学科 食物栄養科学科	
● アンケート結果……………	34

インターンシップⅠA・ⅠB

1. 目的

- (1) 学生がキャンパスの中で修得した知識や理論を現実のフィールドで実践し、体験することにより、キャンパス内での学習効果を一層高める。
- (2) 学生個々の自主性、独創性、協調性を養い、自立心を高める。
- (3) 実社会における企業等の現場を体験し、地についた職業観を形成する貴重な機会とする。

2. 制度概要

(1) 科目設置区分・期間・時間・単位

正規授業科目として共通学芸科目区分に設置しています。

- ・「インターンシップⅠA」 通年1時間1単位（選択）
- ・「インターンシップⅠB」 通年2時間2単位（選択）

※単位が認定されるのは、次の条件を満たす実習に限ります。

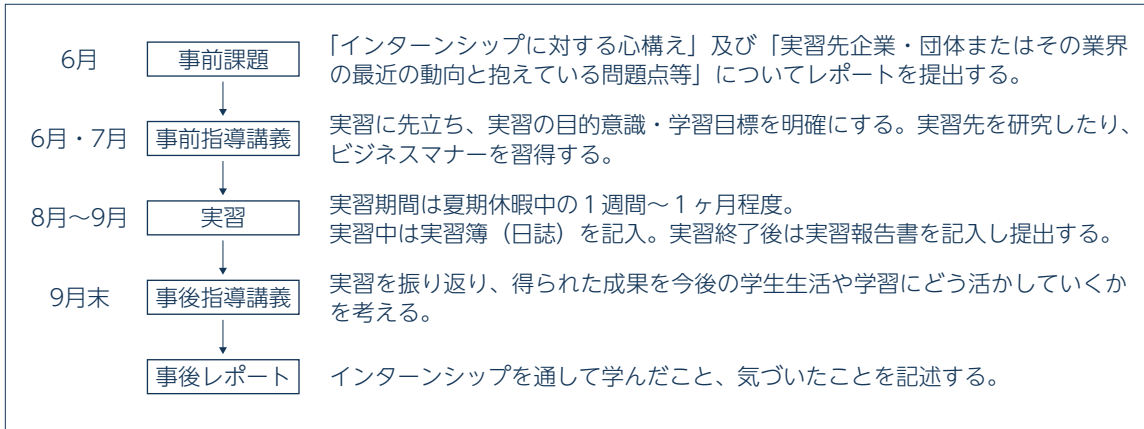
- ①受入企業・団体と本学が直接協定を交わすこと。
- ②夏期休暇中に実施され、原則としてⅠAの場合は「実習日数5日間以上8日間未満かつ総実習時間30時間以上」、ⅠBの場合は「実習日数8日間以上かつ総実習時間48時間以上」の条件を満たしていること。

(2) 対象、及び履修年次

全学部全学科 2年次生以上

(3) 実施形態

実地での実習だけでなく、学内で実施する事前・事後指導を含めて一連のプログラムとなっています。



(4) 成績

出席状況、実習先からの成績報告書、実習簿、及び報告書をもとに成績評価を行う。

(5) 実習費

2,000円

オープンインターンシップ（大学協定型）

大学と各地域のインターンシップ推進団体や受入先企業・団体とが協定を締結し、実習生選考から実習までその実習受入先の方針・計画に従って進められます。

同志社女子大学が推奨するその他のインターンシップ

☐ インターンシップ

公益財団法人大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムで、エクスターンシップ（就業体験）コース、プロジェクト企画実践コースからなる。（正規授業科目として共通学芸科目区分に設置）

☐ インターンシップⅡ

各学科の応用・各論科目と関連させ、プログラムを策定。企業、自治体などの各行政機関、関連法人等で実習を実施。（正規授業科目として応用・各論科目区分に設置）

インターンシップⅠA・ⅠB、オープンインターンシップ(大学協定型) 年間スケジュール

実習以外は学内実施

月	インターンシップⅠA・ⅠB	オープンインターンシップ（大学協定型）
5月	●実習生募集説明会 ●募集 出願 実習生選考（書類、面接） 選考結果発表	●学内で実習生募集 ↓
6月	●事前指導講義（2日） ↓	●インターンシップ推進団体または実習先による選考 ●事前指導講義（2日） ↓
7月	↓	↓
8月	●インターンシップ ↓	●インターンシップ ↓
9月	●実習生から実習報告書提出 ●実習先から成績報告書提出 ●事後指導講義（1日）	●事後指導講義（1日） ↓
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月	●実習生へ単位授与（該当者のみ）	
備考		●各地域の推進団体によりスケジュールは異なる ●春期インターンシップを実施している地域もあり

インターンシップⅠA・ⅠB、オープンインターンシップ(大学協定型) 事前・事後指導講義概要

	講義名	講義内容	学習目標
1	事前指導講義 ①	インターンシップ概要説明	インターンシップの趣旨等について理解する
2	事前指導講義 ②	目標・課題設定	・インターンシップで何を学ぶのかを理解する ・インターンシップに参加するにあたっての目標・課題設定を行う
3	事前指導講義 ③	目標・課題設定 組織／企業（団体等）研究	・目標達成、課題を解決するための、インターンシップでの取り組み方について学ぶ ・組織／企業（団体等）研究の方法について理解し、レポートを作成する
4	事前指導講義 ④	ビジネスマナー講習 ＜基本編＞	言葉遣い、電話対応、来客応対などのビジネスマナーを身につける
5	事前指導講義 ⑤	ビジネスマナー講習 ＜応用編＞	言葉遣い、電話対応、来客応対などのビジネスマナーを身につける
6	事前指導講義 ⑥	実習前準備、実習にあたっての確認・注意	実習前の準備、実習にあたっての注意事項を確認する
7	事後指導講義 ①	実習ふりかえり	・事前目標・課題に対する到達度をふりかえる ・インターンシップを今後に活かすために、下記①～④について整理する ①仕事内容を整理する／仕事に求められている力を整理する ②働く魅力を考える ③実習先や業界の今後の展望を考える ④訪問後の気づきをまとめる
8	事後指導講義 ②	グループディスカッション 及び発表	学生同士で実習状況や目標への到達度合いを話し合い、確認することで、自らの学びをブラッシュアップし、インターンシップのまとめを行う
9	事後指導講義 ③	全体総括・今後に向けて	

※2025年度プログラム。

①インターンシップ I A・I B

都道府県別

ブロック	都道府県	受入先数	実習先数	実習生数
関東	東京都	2	0	0
北陸	福井県	1	0	0
東海	静岡県	1	1	1
東海	三重県	1	0	0
近畿	滋賀県	4	0	0
近畿	京都府	20	11	16
近畿	大阪府	26	9	12
近畿	兵庫県	3	1	1
近畿	奈良県	3	3	3
四国	高知県	1	1	1
海外	タイ	1	1	4
海外	マレーシア	1	1	2
合計	延数	64	28	40
	実数	64	27	40

業種別

業種	受入先数	実習先数	実習生数
建設業	1	1	1
製造業	3	2	2
放送業	2	2	2
運輸業	3	1	4
卸売業	3	1	1
小売業	11	1	1
金融業	4	2	4
映像・音声 ・文字情報	1	0	0
専門サービス業	1	1	1
宿泊業	5	3	3
飲食店	1	0	0
その他の生活 関連サービス業	3	0	0
旅行業	2	2	3
技術サービス業	1	1	2
学校教育	3	1	1
医療業	1	0	0
その他の 事業サービス業	2	1	2
政治・経済・ 文化団体	1	0	0
広告業	1	1	2
情報通信業	5	1	1
保険業	1	1	2
地方公務	9	5	8
合計	64	27	40

②オープンインターンシップ（大学協定型）

都道府県別

ブロック	都道府県	希望者数	実習先数	実習生数
関東	群馬県	1	1	1
関東	埼玉県	1	1	1
北陸	新潟県	1	1	1
東海	岐阜県	1	1	1
東海	三重県	1	1	1
近畿	滋賀県	2	1	2
近畿	大阪府	5	1	1
近畿	和歌山県	1	1	1
中国	広島県	1	1	1
合計		14	9	10

業種別

業種	実習先数	実習生数
国家公務	1	1
地方公務	8	9
合計	9	10

合計

	実習先数	実習生数
①インターンシップⅠA・ⅠB（直接協定型）	27	40
②オープンインターンシップ（大学協定型）	9	10
合計	36	50

①インターンシップ I A・I B

ブロック	企業・団体名称	ブロック	企業・団体名称
東海	静岡エフエム放送株式会社	近畿	株式会社スタジオアリス
近畿	茨木市教育委員会	近畿	株式会社西武・プリンスホテルズ
近畿	SMBC日興証券株式会社		ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池
近畿	株式会社エスワイシステム	近畿	谷税理士法人／有限会社タックス・プランニング
近畿	大阪シティ信用金庫	近畿	株式会社DAY TO LIFE
近畿	香芝市役所	近畿	豊中市役所
近畿	金井ホールディングス株式会社	近畿	株式会社日本旅行
近畿	亀屋良長株式会社	近畿	株式会社パソナグループ
近畿	木津川市役所	近畿	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
近畿	京田辺市役所	近畿	株式会社ホテル京阪マネジメント
近畿	株式会社きんでん京都支店	近畿	明治安田生命保険相互会社
近畿	株式会社神戸ポートピアホテル	四国	株式会社テレビ高知
近畿	御所市役所	海外	株式会社JTBマレーシア支店
近畿	株式会社新通	海外	日本航空株式会社バンコク支店

②オープンインターンシップ（大学協定型）

ブロック	企業・団体名称等	名 称
関東	—	高崎市役所
関東	—	加須市役所
北陸	—	燕市役所
東海	—	岐阜市役所
東海	—	伊賀市役所
近畿	—	滋賀県庁
近畿	—	法務省 浪速少年院
近畿	わかやま就職支援センター	和歌山県庁
中国	—	広島市役所

インターンシップ I A・I B 目次

【あ】

茨木市教育委員会.....17

SMBC日興証券株式会社.....11, 21, 25

株式会社エスワイシステム.....26

大阪シティ信用金庫.....10

【か】

香芝市役所.....20

金井ホールディングス株式会社.....15

亀屋良長株式会社.....27

木津川市役所.....15, 18

京田辺市役所.....10, 17

株式会社きんでん 京都支店.....13

株式会社神戸ポートピアホテル.....16

御所市役所..... 9

【さ】

株式会社JTB マレーシア支店.....20, 23

静岡エフエム放送株式会社.....24

株式会社新通..... 9, 23

株式会社スタジオアリス.....14, 18

株式会社西武・プリンスホテルズ

ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池

.....19

【た】

谷税理士法人/有限会社タックス・プランニング

.....12

株式会社DAY TO LIFE 27

株式会社テレビ高知.....11

豊中市役所..... 8, 26

【な】

日本航空株式会社 バンコク支店.....14, 19, 22

株式会社日本旅行.....24

【は】

株式会社パソナグループ.....13, 16

富士フイルム

ビジネスイノベーションジャパン株式会社

.....21

株式会社ホテル京阪マネジメント..... 8

【ま】

明治安田生命保険相互会社.....12, 25

オープンインターンシップ(大学協定型) 目次

伊賀市役所.....30

加須市役所.....31

岐阜市役所.....31

滋賀県庁.....29, 33

高崎市役所.....32

燕市役所.....29

広島市役所.....33

法務省浪速少年院.....30

和歌山県庁.....32

インターンシップ I A・I B

体験レポート ● ● ●

音楽学科

企業

インターンシップ実習を振り返って

学芸学部 音楽学科 2年次

〔株式会社ホテル京阪マネジメント〕

実習期間 9月7日～9月17日
実習時間 10:00～16:00

ホテル京阪 京都八条口にて、9日間のインターンシップ実習に参加しました。実習を受けるにあたり、トラブル対応とお客様に安心を与える接し方、能動的かつ積極的な動きの3点を目標として設定し、その達成を目指して準備と業務に取り組みました。

予想以上に海外からのお客が多く、要望を正確に聞き取れず、事前に作成した英語・日本語での対応マニュアルだけでは十分に対応できないことも、実習初期には何度かありました。しかし、業務に慣れるにつれて、お客様のニーズや疑問の傾向を徐々に理解し、落ち着いて笑顔で接客できる余裕も持てるようになりました。業務内容を把握した3日目以降は、自ら状況を判断して積極的に行動できるようになり、自己目標の達成にもつながったと思います。

実習では、チェックアウトや荷物の預かりなどのフロント業務、フロントと各階ホール・浴場のアメニティーの補充、貸出品の整理、客室の掃除・確認、大浴場の点検などを行いました。

常にスタッフの方々との連携・連絡を心がけてはいましたが、ある時、タクシーの手配をしたことを伝え忘れてしまい、注意を受けたことがあります。その時は大きなトラブルには発展しませんでした。スタッフの方々の業務に影響を与えたり、最悪の場合にはお客様をお待たせする可能性があります。円滑に業務を推進するためにも、連携・連絡は大切だと考えさせられました。

また、実習を通して、自分の声の小ささと発音の不明瞭さに気づかされました。はっきりと大きな声で話さなければ、お客様に正確に伝わらないため、今後は明瞭な発音、ゆっくりと聞き取りやすいボリュームを意識したいです。

実習全般の反省点としては、チェックイン業務の手続きにかかりきりになってしまい、客室やサービスのご案内にお客様に十分にお伝えできなかったことが挙げられます。言葉で説明することは、どの職種で働くにしても必要だと思われるため、自分が働く場所のサービス内容や館内の地図をあらかじめ把握し、案内の言葉をスムーズに伝え、お客様が安心できるように努めたいです。また、ホテルから京都駅までの行き方を尋ねられた際に、正確にご案内できなかったことも反省点です。地図を読むことに苦手意識がありますが、サービス業に従事するには必要な能力のため、克服しておきたいと考えています。

この実習を通して、笑顔は単に表情を明るくするだけでなく、お客様に安心感や親しみやすさを与え、良い雰囲気づくりに直結するものだと実感しました。反対に、お客様からの笑顔が自分自身のやりがいにつながることも実感しています。また、自分のできる業務を探して自発的に動くことも、充実感を得るために不可欠な要素だと学びました。

今後のグループ活動や普段の生活でも密な連絡・報告を心がけ、周囲から信頼される人物になりたいと考えています。そして、周囲の人々に温かな気持ちになってもらえるよう、笑顔を大切に生きていきたいという思いも心に刻みました。

メディア創造学科

官公庁

市民に寄り添う広報の仕事から得た学び

学芸学部 メディア創造学科 3年次

〔豊中市役所〕

実習期間 8月25日～8月29日
実習時間 8:45～17:15

私が実習で感じたこと、経験を通して得たことは三点ある。

一点目は、職員の方々の説明や働き方を通じて気づいたことである。広報企画係は暮らしに関わる重要な情報を発信し、公聴係は市民の声を各課に繋ぐ架け橋となるなど、市民生活を支えるうえで欠かせない役割を担っていた。広報の仕事は情報発信にとどまらず、各課との調整やデジタル研修など幅広い業務を含み、相手に応じた言葉選びや柔軟なコミュニケーション能力が不可欠である。市民や他課からの問い合わせが非常に多く、それらの対応では誤解を招かない丁寧な表現や、相手に寄り添う姿勢が重視されていた。質問や相談に応じながら業務を進めるなかで、職員間での報連相を徹底し、正確に情報共有することの重要性を改めて実感し、広報誌の細部を確認する地道な作業も、市民が読みやすく信頼できる情報発信につながるとう理解した。

二点目は、実務体験を通して学んだことである。動画作成体験では、撮影前にターゲットやメッセージを明確にし、動画を通して相手にどのような行動を促したいのかを考えることが重要であると理解し、対象者ごとに必要な要素を意識した素材集め、編集を行うことの難しさを感じた。

さらに、豊中つばさ公園「ma-zika」で飛行機を楽しむ市民の姿を観察し、現場でしか分からない反応を知ることができたのは貴重な経験であった。

また、広報誌12月号特集案として、国の天然記念物マチカネワニを題材に企画書を作成した。ターゲットを意識して構成を考え、レイアウトを組む過程で全体像を具体的にイメージできた。中学生でも理解できる言葉選びや楽しめる要素を評価いただいた一方、文字組みや視認性には課題が残り、改善すべき点を明確にできた。

市民の意見を取り入れる新たな仕組みの考案では、既存制度がある中で新しい切り口を見つける難しさを痛感した。日常の体験や関心を手掛かりに発想を広げ、実現性や課題への対策を同時に検討する必要があることを学んだ。市政に参加してもらう仕組みづくりの困難さと重要性を強く意識する機会となった。

三点目は、広報全体の役割について考えたことである。広報は市民に向けた情報提供にとどまらず、安心感や地域の魅力を伝えるとともに、報道機関から取材してもらえる記事を生み出す役割もある。一人一人が広報担当者であるという意識を持ち、責任をもって発信することの大切さを学んだ。

これらを通じて、対象者や目的に応じた適切な言葉選びの重要性を実感した。さらに、幅広い視点で情報の受け手を想像し、伝わりやすさを意識する姿勢が不可欠だと学んだ。職員の方々から直接いただいた丁寧なフィードバックは大変貴重で、情報をどのように届ければ市民の行動変容につながるのかを考えることは難しくも興味深い学びであった。今後も、市民にとって有益で分かりやすい広報の在り方を模索し、理解をさらに深めていきたい。

企業

広告と社会、そして自分自身への発見

学芸学部 メディア創造学科 3年次

〔株式会社新通〕

実習期間 8月15日～8月20日
実習時間 9:30～18:30

今回のインターンシップを通して、メディアの形式が大きく変容し続ける現代社会で、「広告」が果たす役割と総合広告代理店の仕事の本質について深く学ぶことができました。

大学に入学する以前から漠然と広告業界を志望していたものの、実際にどのような業務を扱っているのかは外部から見えにくく、いわば「ブラックボックス」のように感じていました。しかし、今回のプログラムは、そうした疑念を晴らす貴重な機会となりました。初日には「広告とは何か」という基礎的な講義から始まり、新通様がこれまで手掛けられた多様な事例を交えながら、応用に至るまでの知識を丁寧にご教授いただきました。広告は単なる宣伝ではなく、社会や人々との関わりの中で価値を持つのだと実感しました。また、総合広告会社ならではの強みとして、幅広い業界に携わってきた社員の方々が、経験を基に部署ごとの特徴やリアルな事例を共有してくださり、広告がどのように形づくられるかを具体的に知ることができました。特に、現在はデジタル広告が主流となる中で、各メディアの活用法やそこに至るまでの試行錯誤を伺えたことは非常に印象的で、学びの大きな糧となりました。中でも強く心に残っているのが、「映画広告」と「公営競技」を題材とした二つの企画立案プレゼンテーションです。映画広告の企画では、指定作品の概要を分析し、その魅力をいかに多くの人に伝えるかという戦略を考えました。本学の学生のみならず他大学のインターンシップ生とも協働したことで、自分にはなかった新鮮な発想や多様なプレゼンテーションスタイルに触れることができ、大きな刺激を受けました。一方、公営競技の企画は二人一組のコンペ形式で行われ、事前に対象の会場を訪問し、自らの目で特徴を確認しながらペルソナを設定し、アイデアを練りました。漠然としたイメージだけでなく現場を体験することで新たな魅力や課題に気づき、広告が緻密な調査と観察に基づくことを身をもって実感しました。

両プレゼンテーションに共通して、実際に事業を担当される社員の方々に直接発表を見ていただき、内容だけでなくプレゼンテーション技術や表現方法についても細やかなフィードバックをいただきました。アイデアを「伝わる形」に変える技術の重要性を強く感じ、今後の学びや実践に活かしていきたいと考えています。

振り返ると、社員の皆様の温かいサポートとご指導に支えられ、自分自身の長所や課題を見つめ直す機会となりました。広告業界の理解を深めただけでなく、社会人として必要な姿勢や考え方を学び、大きな成長へとつながったと確信しています。今回得た経験を今後の学びや将来の進路選択において大切に活かし、より一層自己を高めていきたいです。そして、将来的には、今回の学びを基盤として、社会に価値を届けられる人材へと成長していくことを目指したいと強く感じています。

社会システム学科

官公庁

市役所インターンシップで得た経験

現代社会学部 社会システム学科 3年次

〔御所市役所〕

実習期間 8月18日～8月22日
実習時間 8:30～17:00

この度、御所市役所にて5日間のインターンシップに参加しました。実習では、市役所が地域課題にどのように取り組んでいるかを学び、公務員として働く自身の適性や課題を発見すること、職員の方の話を聞く際に、その背景や目的を理解する努力をすることを目標に取り組みました。

初日は市民課で窓口業務を体験し、複雑な手続きに対してわかりやすい説明や細やかな配慮が求められていることを知りました。市民の安心を支える姿勢から、窓口業務は市役所の第一印象となる役割を果たしていると実感しました。

2日目は、御所まちの散策やポケットパーク整備の提案を行い、部長や課長にプレゼンテーションを行いました。計画実現には、住民合意や費用確保など多くの課題が伴うことを理解しました。

3日目は、教育委員会子ども向けイベントのチラシ作成や教室活動を見学し、社会教育施設の役割を学ぶと同時に、世代を超えた参加促進の必要性を感じました。さらに、新しい学校づくりを始める際の試掘調査の見学、学校統合における市民意見の反映や調整の大切さを学びました。

4日目は、人事課で職員を支える業務に触れ、職場全体を見通す役割を理解しました。午後からは教育委員会に戻り、定例会議に出席し、学校訪問を通じてICT環境整備など、教職員を支える業務の重要性を実感しました。

5日目は、面接官研修の講習会に参加し、面接官側の視点から採用に関する話を伺うことができ、人材育成における公平性や適性判断の大切さを学びました。普段は減部に経験できない貴重な5日間を過ごすことができました。

この5日間の実習を通じて、自身の強みと課題を改めて認識することができました。私の強みは、困難な課題にも果敢に挑戦する姿勢、分からないことをすぐに質問し、理解を深めようとする積極性です。これにより学びの機会を広げ、業務にも主体的に取り組むことができました。また、職員の方々がお互いに助け合い、円滑に業務を進める姿から、コミュニケーションの重要性を強く感じました。

一方で、自分の考えを論理的かつ簡潔にまとめて伝える力が十分でないことや、1つの視点に偏らず多角的に物事を捉える姿勢が不足していることが課題です。今後は、普段から相手にわかりやすく伝えるよう努め、広い視野を養うことで、さらに成長していきたいと考えています。

加えて、公務員として必要な専門知識や法の理解がまだ十分でないことを痛感しました。そのため、これからの学生生活では、勉強をより一層頑張りたいと考えています。また、実際の業務や職員の働き方を間近で見ることで、公務員として働く姿や役割が具体的にイメージできるようになり、進路選択に向けたモチベーションも高まりました。今回の経験を糧に、知識の習得と自身の適性をさらに深めていきたいです。

企業

インターンシップでの学び

現代社会学部 社会システム学科 3年次

〔大阪シティ信用金庫〕

実習期間 8月18日～8月26日

実習時間 8:40～17:10

私は今回、大阪シティ信用金庫において7日間の実習に参加し、そのうち3日間、自身の取引支店にて営業業務の体験をしました。この実習を通じて、信用金庫の役割を理解するとともに、営業現場で求められる「信頼関係」と「準備の大切さ」を実感しました。

前半の本店研修では、信用金庫の組織や業務について説明を受けました。銀行と同様に預金・融資・為替を扱いますが、最大の特徴は「地域とともに歩む」という理念です。中小企業や個人に寄り添い、暮らしや経営を支える姿勢に、地域金融機関ならではの強みを感じました。また、金融サービスにとどまらず、地域イベントや金融教育に取り組んでいることも知り、社会的な役割の大きさを学びました。

後半の3日間は支店に配属され、営業担当の方に同行しました。訪問先では融資や資産運用、事業計画の相談などに立ち会いました。特に印象的だったのは、職員の方が「最近のご様子はいかがですか」と自然な会話から商談を始めていたことです。相手の話を丁寧に引き出し、そこから課題を見つけて提案する姿勢に、営業は商品説明ではなく「信頼づくり」から始まることを理解しました。

外回りでは、中小企業の経営者の方から「上に立つ人間の姿勢」や「仕事を続ける上で大切にしてきた考え方」といった人生の教訓を伺う場面もありました。短い対話でも言葉に重みがあり、人としてのあり方を考えるきっかけになりました。さらに支店長からは「社会に出たら、腹を割って話せる友達を作っておきなさい」と助言をいただきました。知識やスキル以上に、人とのつながりや信頼が自分を支えるのだと理解し、心に残る言葉となりました。

営業活動では事前準備の重要性も学びました。訪問前にお客さまの取引状況や業界動向を調べ、想定問答を整理することが不可欠です。私は資料を確認して臨みましたが、想定外の質問に答えられず、知識不足を痛感しました。こうした経験から、金融知識を広げ、柔軟に対応できる力を身につける必要性を理解しました。

また、窓口での対応からも多くを学びました。定期預金を相談されたお客さまに対し、担当の方は商品の説明に加え、ご家族や将来設計にまで耳を傾けていました。「安心して続けられることが一番です」との言葉に、信用金庫が大切に「寄り添う姿勢」を実感しました。利益よりも信頼を優先する姿勢が、地域から支持される理由であると理解しました。

一方で、自分の課題も見つかりました。金融知識の不足、そして営業で必要とされる「人間力」です。声のトーンや相槌、表情といった細やかな配慮が安心感を生むことを学びました。職員の方や経営者、支店長の姿を手本に、今後こうした部分を意識して磨いていきたいと思います。

外回りや支店での体験を通じて、営業は数字を追うのではなく「人と人との信頼」に支えられていることを認識しました。お客さまとの会話や職員の方々の姿勢、そして支店長の言葉から、自分が働く上で大切にしたい価値観が見えてきました。今回の学びを、今後の就職活動やキャリア選択にしっかり生かしていきたいです。

官公庁

インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 3年次

〔京田辺市役所〕

実習期間 9月8日～9月19日

実習時間 8:30～17:15

私は地方公務員になりたいと考えています。そのために、市役所職員の業務や地域との関わり方を体験的に学び、将来の目標をより具体的に描きたいと思い、インターンシップに参加しました。

今回は、デジタル情報課で9日間実習させていただきました。実習では、主に3つの業務に携わりました。まず、オンラインフォームを作成し、作成したフォームを担当部署の方々にプレゼンテーションさせていただきました。次に、市民からの問い合わせに自動で対応するAIチャットボットのデータ管理業務を体験させていただきました。そして、最終日には窓口体験調査に市民役として参加させていただき、その後の課題発見ワークショップにも参加させていただきました。特に印象に残っているのは、窓口体験調査とその後のワークショップです。この調査では、小学5年生の男の子の役を担当させていただきました。自分と立場の全く違う人の視点に立つことで、物事を多角的に考えることの難しさと、そこから得られる発見の多さを知ることができました。また、このワークショップではデジタル情報課以外の部署の方や、様々な年代の方と直接お話しできる貴重な機会となり、ほかの部署の仕事についても知ることができました。

実習を通じて、2つの学びを得ることができました。1つ目は、行政DXの役割と意識変革の必要性です。実習中に貸していた本や職員の方々との懇談で、行政におけるDX化は単に技術を導入することではなく、「市民の利便性向上」と「職員の負担軽減」の両方の目的があり、その推進には組織全体の意識改革が不可欠であることを学びました。2つ目は、コミュニケーションの重要性です。市民の方々の多様なニーズに応える窓口対応や他部署との連携が必要な市職員において、相手の意図を正確に汲み取る傾聴力と情報を明確に伝える言語化能力が重要だと強く実感しました。

反省点は、プレゼンテーションの際、緊張で話そうと思っていたことを全て話しきれなかったり、説明を順序良く論理的に行うことができず、ときどき相手の方にうまく伝わっていない時があり、その都度担当の方に補足していただいたことです。今後、ゼミでのプレゼンテーションを行う機会には、論理的かつ順序良く話すことを心がけたいと思います。

今回のインターンシップは、実際に体験してみなければ学ぶことのできないことばかりで、自分の将来像を明確にすることができたり、今の自分に足りていないことを明確にすることができたりと、非常に実りの多い貴重な機会となりました。

最後になりますが、お忙しい中、貴重な経験と温かいご指導をくださいましたデジタル情報課をはじめとする京田辺市役所の皆様、このような機会を提供してくださったキャリア支援部の皆様に心から感謝申し上げます。今回の体験を糧に、より一層成長できるよう努めてまいります。誠にありがとうございます。

企業

インターンシップを通して学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 3年次

〔SMBC日興証券株式会社〕

実習期間 8月25日～9月5日

実習時間 9:00～15:00

私は10日間のSMBC日興証券株式会社のインターンシップに参加させていただきました。参加理由としては、金融業界の中でも特に証券会社に興味を持っており、10日間を通じて業界理解を深め、自分の適性を確かめられると考えたからです。また、事前学習のマナー講座やグループワークを通して、これから本格化する就職活動に活かせることにも期待していました。

10日間のインターンシップを通して、証券会社の業務や役割、部署について講義形式で学習後、フィールドワークやグループワークを通じて理解を深め、2つの大きな学びを得ることができました。

まず、証券業界への解像度が上がったことです。前半5日間は座学を中心に、投資に関わる講義や証券会社の各部署について学び、実際に働かっている社員の方々との座談会の機会も多数設けていただきました。大学では投資について深く学んでいなかったため、不安を感じながらの参加でしたが、一つひとつ丁寧に講義してくださったことで、誰でも参加しやすい内容だと感じました。就職活動では、人事の方と関わる機会がありますが、現場の社員の方々のリアルな声を伺う機会は少ないため、非常に貴重な経験となりました。各パートで質問の時間も設けていただき、不明点をすぐに解消できたことも理解を深めるうえで大きな助けとなりました。講義を通して、日本を取り巻く社会情勢から資産形成の重要性を理解し、社会貢献性の高い証券会社の業務に強く魅力を感じました。

次にグループワークの重要性について学びました。5つのグループが同じテーマを分析し、様々な視点から導いた結果をプレゼンテーションするという内容で、テーマは投資に関わる難しいものでした。知識が少ない中でも、自分にできることを考えながら前向きに取り組みました。穏やかな雰囲気グループもあれば、緊張感のあるグループもあり、個々の取り組み方によってグループの雰囲気が大きく異なることを認識しました。私は強みである傾聴力を活かし、一人ひとりの意見に耳を傾け、意見の相違が生じた際にも共通項を見つけることに尽力しました。また、知識が足りない部分は他のメンバーが補うなど、個々の力を持ち寄って活動することができました。結果、3位として表彰していただき、非常に嬉しく感じました。さらに、発表後には社員の方から、私のプレゼンテーションにおける声量や自信を持って話す姿勢を評価していただきました。前向きに取り組む姿勢を見極めていただけたことは光栄であり、自分の新たな強みを発見する機会となりました。

今回の実習を通じて、証券会社の知識だけでなく、社会人としての在り方やマナー、物事に前向きに取り組む姿勢の大切さについても学ぶことができました。また、新たな自分の強みや改善点を発見することができたため、この学びをこれからの就職活動や学生生活に活かしていきたいです。

企業

インターンシップで学んだこと

現代社会学部 社会システム学科 3年次

〔株式会社テレビ高知〕

実習期間 9月1日～9月5日

実習時間 10:30～19:00

私はインターンシップIA・IBで、株式会社テレビ高知の実習に参加しました。

5日間を通して、実際に放送業とはどのようなことかを学び、これからの残り少ない大学生活や社会人生活にも役立てていけたらよいと思うことを多く経験させていただきました。

まず、このインターンシップで感じたこととして、放送業は私の思っていたよりも体力的にも精神的にも力がいるということでした。株式会社テレビ高知は、地方のテレビ局ということもあり、少数精鋭でお仕事をされており、アナウンサーの方やカメラマンの方が記者も兼任して様々な取材やインタビューを行っていました。

1日のスケジュールは10時半から始業となっていますが、実際には8時半や9時頃から現場を訪れ、3時間ほど取材を行いました。テレビ局に帰ってきてから、昼食を食べる間もなく、編集や記事の作成など多くのタスクをこなしており、一日一日の仕事量がとても多く充実していました。学校では経験できない実務を経験させていただき、心に残るひとときだったと思います。

さらに台風や大きな事故があった際には、昼夜問わず現場に向かい、視聴者の方々に状況を正確に伝えるため、中継をするときもあると教えていただき、改めて放送業の方々のおかげで、私たちは情報を知ることができていると認識しました。

取材活動だけでなく視聴者に公平に物事を伝えるためには、記事内の言葉遣いや報道内容にも細心の注意を払う必要があることをご指導いただき、報道に携わることの責任の重さを実感しました。

丁寧に指導してくださった記者の方は、「報道は会社や自分のためではなく、視聴者のためにある」と教えてくださり、その言葉がとても印象に残っています。

この経験を通して、テレビ局の方々が日々どれほど真摯に報道に向き合い、視聴者に正確かつ誠実な情報を届けようと努力されているかを肌で感じることができました。

取材現場で得た情報をただ並べるだけではなく、限られた時間の中で何をどう伝えるべきかを考え抜く力は、今回のインターンシップにおいて最も大きな学びとなりました。

特にこれから就職活動や卒業研究を進めていくにあたって、情報の取捨選択や、読み手に伝わりやすい文章を構築する力は不可欠であり、今回の経験はその基盤を築く貴重な機会であったと思います。

今回のインターンシップは、報道という仕事の厳しさや意義を体感すると同時に、自分自身の課題や可能性にも向き合う時間となりました。今後の進路や研究においてもこの経験を糧に、伝えることの意味と責任を意識しながら取り組んでいきたいと思っています。

【株式会社パソナグループ】

企業

インターンシップを通して

現代社会学部

社会システム学科

2年次

実習期間

9月1日～9月5日

実習時間

9:30～17:30

今回のインターンシップを通して、「働く」ことに対するイメージが少しずつ具体的になりました。今までは、「社会人になる＝忙しくて大変そう」という漠然とした不安ばかりが先行していました。しかし、実際に社会人の方と話したり、仕事を間近で見たりする中で、「大変そう」だけではなく、その中にやりがいや達成感を見出して働いておられる姿を拝見することができました。特に、人材派遣という業種は「人」を扱うため、難しさもある反面、誰かの人生の転機に関わることができる責任ある仕事でもあり、やりがい大きいというお話が印象に残っています。

また、インターンシップ中に感じたのは、知識やスキルだけでなく「姿勢」が大切だということです。社員の方々は一つひとつの言葉選びや対応に対してとても丁寧で、目の前の相手に真摯に向き合う姿勢がとても素敵でした。私はまだ、どこか自分のことばかりを考えてしまっていたり、うまく言葉が出てこなかったりする場面も多かったのですが、そうした自分の未熟さに気づけたことも大きな学びだったと思います。今後の学生生活の中でも、もっと人との関わりを大切に、相手の立場になって物事を考えることを意識して行動したいです。

インターンシップに参加する前は、「将来どの業界に進みたいか」「どんな職種が向いているのか」といったことが漠然としており、焦りも感じていました。しかし今回、実際に働く現場を見てお話を聞く中で、「自分はどんな働き方をしたいのか」「どんな価値観を大切にしたいのか」という軸が、少しずつ見えてきたように感じます。もちろん、まだはっきりとした答えが出たわけではありませんが、就職活動をしていく上での一つのヒントになったことは間違いありません。

さらに印象的だったのは、インターンシップ中に会った社員の方々の「人柄」や「チームの雰囲気」です。とても温かく迎えてくださり、どんな質問にも真剣に答えてくださったことがとても嬉しかったです。最初はとても緊張していましたが、次第にリラックスして自分らしく過ごすことができたのは、そうした環境があったからこそだと思います。企業選びにおいて「人」や「社風」というのはとても重要だと頭では理解していましたが、今回の経験を通して身をもって知りました。

このように今回のインターンシップは、「社会を知る」だけでなく、「自分自身を知る」貴重な機会にもなりました。普段の生活の中では気づけなかった自分の弱点や課題に向き合い、それと同時に、自分の可能性や行動力にも少し自信を持つことができました。インターンシップに参加していなければ、こんなにも多くの気づきを得ることはできなかったと思います。

これから本格的に就職活動が始まっていきますが、今回の経験を糧にして、ただ内定をもらうための活動ではなく、「自分がどんな社会人になりたいか」「どんな環境で、どんな人と働きたいか」をしっかりと考えながら、自分に合った道を選んでいきたいと思っています。そして、さらにインターンシップなどの機会があれば、積極的に参加し、視野を広げていきたいです。

今回の経験は間違いなく、私のこれからの人生にとって大きな一歩だったと感じています。勇気を出して参加して本当に良かったです。

【株式会社神戸ポートピアホテル】

企業

インターンシップを経て

現代社会学部

社会システム学科

2年次

実習期間

9月15日～9月19日

実習時間

10:00～17:00

私は今回、株式会社神戸ポートピアホテルで、五日間のインターンシップに参加させていただきました。以前から、ホテルで働きたいというおおまかな夢を抱いており、数多くのホテルを研究した結果、神戸ポートピアホテルの雰囲気や立地が素敵で、ここで学びたいという思いが強くなり、応募を決めました。就職活動やインターンシップについて、右も左も分からない状態でしたが、大学が主催してくださっているため、事前講義で必要な知識や心構えを学び、安心して挑むことができました。

インターンシップを通して学んだことは、会社の一員として、常に成長しようという意識を持ち続けることの重要性です。業務の内容を忘れないようにメモを取り、不明点は必ず質問、そして報連相を徹底し周囲と共有することは、どの場面でも欠かせないと実感しました。また、話しかけやすい雰囲気を作ることも大切だと学びました。笑顔を意識すること、姿勢や立ち居振る舞いを美しく保つこと、それら一つ一つがホテルの印象を形作る要素であり、自分の行動が直接ホテル全体の印象につながっているという責任感を強く持ちました。実際の業務では、クロークでの荷物預かりや客室までのご案内などを経験しました。最初は慣れない英語でのご案内に少し戸惑いました。しかし、よく使う表現を繰り返し練習することで落ち着いて対応できるようになりました。そして、お客様に「ありがとう」と言っていたいた時は、とても嬉しかったです。また、表に見える接客業務だけでなく、裏方で準備や細やかな作業の大切さにも気付かされました。クロークでメモを残すことや次に対応する人がわかりやすいように工夫することなど、一見地味に思える作業がスムーズな運営を支えているのだと知りました。お客様に直接接していない時間こそが、快適なサービスを生み出す土台となっているのだと学びました。さらに、実習を通して、「お客様ファースト」の精神を深く理解することができました。お客様のご要望に耳を傾け、どうすれば快適に過ごしていただけるかを常に考えながら動くことが、ホテルマンとしての基本であると理解しました。そして、この姿勢を大切にすることが、自分自身にとってもやりがいや達成感につながるのだと気付かされました。

今回の五日間の経験は、単にホテルの仕事を知るだけでなく、社会で働く上での基本姿勢を学ぶ貴重な機会となりました。今後の学生生活では、この経験を活かし、授業やアルバイトにおいても、チームワークや計画性を意識して取り組みたいです。そして将来は、今回学んだことを土台としてホテル業界で働き、多くのお客様に安心と喜びを提供できる人材になりたいと強く思っています。

【京田辺市役所】

官公庁

インターンシップで得たもの

現代社会学部

社会システム学科

2年次

実習期間

8月28日～9月12日

実習時間

8:30～17:00

私は、京田辺市立培良中学校で9日間のインターンシップに参加しました。インターンシップでは、生徒の授業補助や部活動の支援、ホームルームの運営などを主に行いました。生徒達や先生と関わることでしか得ることができない学びや、実際に学校現場に足を踏み入れることでしか気づけないものばかりでしたが、この実習で新たに得た気づきは3つあります。

1つ目は、生徒との関わり方の難しさと大切さです。授業観察や補助に入中で、意欲的に手を挙げて発言する生徒もいれば、なかなか発言できずに黙ってしまう生徒もいて、同じクラスであっても、個性があり、理解の速さや関心の方向も異なるため、先生は全員が安心して学べる雰囲気を作るとともに生徒それぞれに応じた声掛けや支援が必要であるということがわかりました。実際、つまづいている生徒と一つの問題を解き上げた際に、「できたね、すごい!」とさりげなく声をかけただけで、生徒の表情がパッと明るくなりました。先生の一言が生徒の自信ややる気に大きな影響を与えるのだと痛感しました。

2つ目は、1人1台のタブレット端末の活用です。培良中学校では、「ロイロノート」というものが日常的に使われており、授業中に先生が課題や資料を配布すると、生徒達はタブレットで自分の考えを記入し提出し、提出された意見をスクリーンで共有・比較することができました。タブレットの活用では、生徒同士の考えを「見える化」し、学びの場への参加を促す有効な手段になっているのですが、その一方で、タブレットの扱いに気を取られて集中できない姿が見えたり、操作に慣れていない生徒がつまづき、授業が止まってしまったりする面も見受けられ、「なぜ、タブレットを使うのか」という目的を明確にし、ルールや使い方を徹底することが欠かせないことを学びました。

3つ目は、通級指導教室についてです。通級指導教室とは、通常学級に在籍する生徒が、必要に応じて、個別の支援を受けられる場であり、私たちが中学生の頃にはなかった新たな指導方法です。一人一人の課題や特性に合わせた柔軟な支援が行われている場面から、「苦手だからできない」と諦めるのではなく、「工夫すればできる」と感じられるような支援が必要であるということに気づきました。通級指導教室は、支援を受けた生徒が通常学級に戻った時、孤立せず安心して学べるよう工夫しなければならないという点では大変ですが、担当の先生同士の連携が無いと成り立たないものなので、学校全体で生徒を支えるというその姿勢こそが生徒達の安心感と成長につながると理解しました。

9日間という短い期間でしたが、実習を通して得たICTを活用した新しい学びの形と、生徒の個性に応じた支援のあり方、接し方を学んだことで、将来教員として教壇に立つ上で何が必要なのか、今何をすべきなのかを考え、全ての学びに意図を持って、大学での学びに繋げていきたいです。

【茨木市教育委員会】

官公庁

“教員になる”を考えた6日間

現代社会学部

社会システム学科

2年次

実習期間

9月8日～9月12日、17日

実習時間

8:20～16:50

私は今回、茨木市立天王中学校のインターンシップに六日間参加させていただきました。教員を志すうえで、先生方の仕事の実態を知りたいと考え、この機会に挑戦しました。インターンシップに臨むにあたり、私は二つの自己目標を設定しました。一つは「実際の教育現場を体験することで教育現場への理解を深めること」、もう一つは「生徒への関わり方やサポートの仕方を学ぶこと」です。一つ目の目標については、授業参観の際に先生方の指導法や声かけを中心にメモを取り、意識的に観察するようにしました。その中で特に印象に残ったのは、「いかに生徒にわかりやすく伝えるか」を常に意識されている点です。板書の仕方や発問のタイミングには工夫があり、生徒が主体的に考えられるよう促されていました。また、生徒に問いを投げかけることで、授業を双方向的な学びへと発展させていたことが強く心に残りました。二つ目の目標については、授業外での生徒との関わりや、職員室での先生方の情報共有の場面に注目しました。休み時間には積極的に生徒に声をかけ、短い時間ではありましたが生徒理解に努めることができました。また、朝の職員打ち合わせでは、生徒の一日をより快適に過ごせるように、先生方が細やかに連携されている姿を学びました。さらに、学校が円滑に運営されるのは、教員だけでなく事務職員やサポートスタッフを含む多くの方々の協力によるものであることも実感しました。授業準備や学校生活の裏側には多くの支えがあり、そのおかげで教員が生徒と向き合う時間を確保できているのだと学ぶことができました。加えて、今回のインターンシップでは事前講義での学びを活かし、自分の強みを意識的に探すようにしました。その中で、周囲の状況を素早く判断し、必要な行動を即座に取ることができるという点を自分の強みとして気づくことができました。授業中や職員室で、先生方や生徒の求めていることを察知して手伝えることができました。また、生徒と過ごす時間の中で自然体の自分であられる心地よさを実感し、子どもと関わることそのものが自分にとって大きな喜びであると感じました。教育現場は私にとって「自分らしさを改めて引き出してくれる場所」であり、この仕事自分が合っていると確信することができました。今回の経験を通じて、教員という仕事の魅力を知ると同時に、責任の重さも強く意識するようになり、知識や技術の習得に加え、生徒一人ひとりに寄り添い信頼を積み重ねていく姿勢こそが、教員に求められる資質であると学ぶことができました。最後になりましたが、教職員の皆様には多くのことを学ばせていただき心より感謝申し上げます。また授業のご指導だけでなく、放課後の部活動見学や文化発表会の見学などをさせていただいたことで、生徒の努力や学校全体の一体感を間近で感じる貴重な経験となりました。こうした一つ一つの学びを今後の成長につなげていきたいと思っています。

官公庁

インターンシップを通して

現代社会学部 社会システム学科 2年次

〔木津川市役所〕

実習期間 8月25日～9月5日
実習時間 8:30～17:15

私は、木津川市役所企画戦略部観光商工課において十日間のインターンシップに参加しました。参加を決めた理由は、将来、観光業の企画職に就きたいと考えており、そのため、今の自分に不足している力や課題を明確にし、スキルを高めたいと思ったからです。実習の前半は木津川市内の視察を行い、後半は市役所内でインターンシップ生同士が協力しながら、最終日のプレゼンテーションに向けた準備を進めました。

今回の実習を通して得られたことは、大きく三点あります。第一に「情報を見極めて整理する考察力」です。若者向け観光ルートを作成する課題に取り組む際、市内の寺院や観光スポットを数多く視察しました。その中からターゲット層に適した場所を選別し、定番でありながらも、若者の集客が期待できるルートを提案できました。この経験は、多くの情報の中から、要点を抽出し整理する力につながったと感じています。第二に「課題の本質を捉える思考力」です。木津川市のお土産商品を企画するにあたり、まず、特産品の特徴をリサーチし、ビジネスとして成立するかどうかを考えました。特産品の種類が限られている中で、利益を生む商品を考えることは容易ではありませんでしたが、大阪・関西万博の視察から着想を得て、インバウンド需要も意識した三つの案をまとめることができました。難しい課題に直面しながらも、自分なりの視点を持って取り組んだことは、大きな学びとなりました。第三に「自主性・主体性」です。最終発表に向けて使用する配布資料として、三つ折りパンフレットを自ら提案・作成しました。また、実習期間中に使用する限定的な木津川市のゆるキャラも制作しました。これらは指示を受けて行ったものではなく、自分のスキルを磨きたい、成長したいという思いから自主的に取り組んだものです。結果として、発表時に高く評価され、自信にもつながりました。

その他にも多くの学びがありました。二週間という限られた期間でしたが、木津川市の五ヶ寺をすべて見学できたこと、他二名の実習生と共に、市の魅力を深く探究しながら、プレゼンテーションに向けて何度も練習を重ねたことは、特に印象に残っています。実習生の中で私だけが2年次生でしたが、年次に関係なく温かく接してくださり、また職員の方々も親身に指導してくださったおかげで、安心して活動に取り組むことができました。さらに、DMOや木津川市観光協会の方々と意見交換を行う貴重な機会もいただき、観光行政や地域振興の現場を学ぶことができました。考察力・思考力・主体性をさらに伸ばし、将来、観光業の企画職に生かしていきたいと考えています。大変充実した二週間となり、参加して本当に良かったと思います。

現代こども学科

企業

スタジオアリスのインターンシップを通して学んだこと

現代社会学部 現代こども学科 3年次

〔株式会社スタジオアリス〕

実習期間 8月19日～9月9日
実習時間 9:30～17:30

今回のインターンシップを通して、現場における「技術」「撮影準備」「接客」「協力」という4つの大切な要素を学ぶことができました。お客様にとって一生に残る写真を撮影する現場では、どれも欠かすことのできない要素であり、それらを実際に体験しながら学べたことは貴重な経験になりました。

1日目は、ベビーセミナーの見学から始まりました。赤ちゃんの足の型をとった後にお母さんが装飾をする場面で、スタッフの方が赤ちゃんをあやししながら、優しく声をかけている姿が印象的でした。単に作業をサポートするだけでなく、一人ひとりの親子が安心して取り組めるよう、雰囲気を作ることの大切さを学びました。その後のスタジオ見学では、数多くの衣装や小道具が整えられており、お客様のさまざまな希望に応えられるよう、入念に準備されていることを知りました。さらにヘアアレンジの体験を通して、技術の難しさを実感する一方で、私自身スタッフの方からの励ましの言葉に救われたので、スタッフ同士の支え合いも大切にされていると思いました。1日目を通じて、スタジオアリスの仕事には「技術」「準備」「支え合い」のすべてが関わっていることを理解しました。

2日目は、ヘアアレンジの復習から始まりました。苦手だった部分について、手の向きやコツを丁寧に教えていただき、課題とその改善のヒントを得ることができました。午後には、写真選びの見学や着物の着付けを体験しました。写真選びでは、お客様にとっての大切な思い出を納めるために、写真のどこに注目して選んでいるのか、アルバムにおける写真の配置をどのように決めているのかを学ばせていただきました。着物の着付けでは、中心を揃えることやたるみをなくすことの難しさを知り、何度も練習することの大切さを学びました。ここでは、技術の正確さに加え、お客様に見せる仕上がりの美しさを意識することが重要であると感じました。

3日目は、多くのお客様が来店する忙しい日の現場に入りました。スタジオ準備から撮影までの流れを見学し、メイクやお着替え、衣装の片付けなどをお手伝いしました。特に印象的だったのは、元氣いっぱい走り回る子どもたちへの接し方です。注意するのではなく、興味を引く声かけや遊び心を交えて誘導することで、子どもたちの自然な笑顔を引き出していました。ここでは「柔軟な対応力」と「子どもの視点に立つこと」の大切さを学びました。また、現場のスタッフ間で常に声をかけ合い、役割を分担して撮影をスムーズに進めている様子から、チームワークの重要性を改めて理解しました。

4日目以降は、現場に慣れ、少しずつ自分で考えて動けるようになりました。スタッフの方々の素早い判断力やお客様への気配りにはまだ及ばない部分が多くありましたが、言葉遣いや笑顔での接客を意識して取り組むことで、自分なりに現場の雰囲気づくりに貢献できたと思います。特に、子どもの衣装替えや道具の準備など、細かい部分を丁寧にを行うことが全体の流れを支えていると気づきました。

5日間を通して、「裏側の準備が表舞台の成功を支える」ということを強く認識しました。華やかに見える撮影も、その裏には細やかな準備とスタッフ同士の協力があり、さらにお客様一人ひとりに合わせた心配りがあってこそ成り立っています。また、自分自身の課題として、技術面の未熟さや判断の遅さを痛感しましたが、同時に、経験を重ねることで改善できるという手応えもありました。

今回のインターンシップを通じて、スタジオアリスの仕事は「写真を撮ること」以上に、「思い出をつくること」だと学びました。親子にとってかけがえのない瞬間を形に残すために、スタッフは技術を磨き、準備を整え、心を込めて接しているのだと理解しました。今後、写真館以外の場所や仕事でもこの学びを活かし、「技術」「準備」「心配り」「協力」を意識して行動していきたいです。

英語英文学科

企業

ホスピタリティの真髄

表象文化学部 英語英文学科 3年次

〔株式会社西武・プリンスホテルズ ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池〕

実習期間 8月27日～8月31日
実習時間 7:30～21:00 (シフト制)

私はホスピタリティ業界に関心があり、ホテルでのインターンシップを通じて、基本的な立ち居振る舞いや実際の現場で働く社員の方々から質の高いサービスを直接学びたいと考え、参加しました。これまでホテルを利用する側でしたが、サービスを提供する側に立つことで新たな視点を得たいと思ったことが、参加の大きな動機です。

インターンシップ初日は、国際的な学会の宴会業務に携わりました。お弁当の配布や館内のご案内などを通じて、接客における丁寧な言葉遣いや立ち居振る舞いを学びました。緊張感のある国際的な場での接客は初めてであり、細かな動作一つにも注意を払う必要性を実感しました。二日目は、ホテルのフロント業務を経験し、チェックインカウンターへのご案内や荷物運びを担当しました。お客様が集中する時間とそうでない時間がはっきり分かれており、「手が空いた時間をどう過ごすか」が課題となりました。しかし、社員の方々はその時間を無駄にせず、ロビーの清掃やソファを整え、お困りのお客様がいらっしゃれば積極的に声をかけていました。その主体的な姿勢に感銘を受け、三日日には、自分も同じように動くことを意識しました。四日目は、ホテル併設のレストランで実習を行いました。朝食のビュッフェでは、食器を下げてテーブルを整え、清潔な状態を保つことを心がけました。ランチタイムには初めてコース料理のテーブルセットを学び、料理や飲み物を提供する際のマナーを経験しました。特に、男女が同席する場合には女性から料理を提供するなど、細やかな配慮が求められることを学びました。フレンチのコース料理は満席で非常に忙しかったですが、チームの連携を乱さないよう、素早くお皿を片付けたり水を注いだりと、周囲を見ながら行動しました。社員の方々は常にお客様に目を配り、次の料理を運ぶタイミングをインカムで厨房に連絡するなど、徹底したチームワークを発揮されていました。その連携のプロ意識に深い感銘を受けました。五日目は、宴会場での和食コースのサービスを担当しました。法要後の会食であり、上座・下座の知識や子どもへの配慮など、日本独自のマナーを学ぶことができました。ここでもレストランで培った経験を活かし、チームで役割を分担しながらスムーズなサービスを心がけました。

この五日間を通じて得られた学びは、主に三つあります。一つ目は、主体性を持って動く姿勢です。手が空いた時間も自ら仕事を探し、常にお客様に快適な空間を提供できるよう努めることの大切さを実感しました。二つ目は、ホスピタリティの本質はお客様一人一人に寄り添うことだということです。お客様が困っている様子に気づき、先回りして声をかけることは、お客様に大きな安心を与えることに繋がると知りました。三つ目は、チームワークの重要性です。ホテルという大きな組織では、多くのスタッフがそれぞれの役割を担い、密に連携することで、円滑で質の高いサービスが実現していることを肌で感じました。さらに、外国からのお客様に英語で応対し、最後に日本語で「ありがとう」と言われた経験は、語学力を活かして人に喜んでもらえるやりがい強く感じる瞬間でした。

今回の貴重な経験を今後活かすため、大学生活やアルバイトにおいても、常に相手の立場を考え、主体的に行動することを心がけたいと思います。

最後に、今回のインターンシップを通して、表面的に華やかに見えるホテルの裏には、見えない努力や細やかな気配りが数多く存在することを知りました。サービスの根底には「お客様を心から想う気持ち」があり、その積み重ねが「ありがとう」という感謝の言葉につながるのだと理解が深まりました。この貴重な学びを今後の成長につなげ、将来のキャリア形成に活かしていきたいと思います。

企業

インターンシップで得た学びと気づき

表象文化学部 英語英文学科 3年次

〔日本航空株式会社 バンコク支店〕

実習期間 9月1日～9月5日
実習時間 9:00～17:00

このたび、日本航空株式会社バンコク支店様でのインターンシップに参加し、航空業界の多様な業務に触れるとともに、自らの課題や適性を見つめ直す貴重な機会を得た。参加前は「英語を活かしてお客様に笑顔を届けたい」という漠然とした思いしか持っていなかったが、ご講話や現場体験を通して、将来の方向性をより具体的に描くことができた。まず印象に残ったのは、支店長や副支店長によるJALフィロソフィーに関するご講話である。「有意注意で仕事にあたる」「土俵の真ん中で相撲をとる」と言った言葉は、一つひとつの業務に責任を持ち、細部まで丁寧にに取り組む姿勢の大切さを示していた。特に「物事をシンプルに捉える」という考え方は、複雑な状況に直面しても本質を見極め、冷静に判断する力が求められることを実感させられた。この学びは、学業やアルバイトなど日常生活のあらゆる場面にも活かせる指針となった。次に、旅客ハンドリング体験では、出発便と到着便の両方を経験した。飛行機を間近で見学した際には、機体の迫力や細部に至るまでの工夫に圧倒されると同時に、多くの人々の努力が一つのフライトを支えていることを理解し、「最高のパトタッチ」が実現していることに深い感動を覚えた。搭乗ゲートでは案内役を担当し、一人ひとりのお客様と目を合わせ笑顔で接することで、お客様から笑顔を返していただいた瞬間に大きなやりがいを感じた。また到着便では「ご搭乗ありがとうございます」とお伝えした際に会釈をいただき、ホスピタリティの原点は人と人との温かなやり取りにあるのだと実感した。短い時間であっても、お客様に寄り添う姿勢が信頼と安心につながることを学んだ。また、実習を通じて英語での対応を行う機会もあり、限られた場面ではあったが、自らの言葉で伝えられた経験は大きな自信につながった。今後はより多様なお客様に柔軟に対応できるよう、語学力や表現力をさらに高める必要性を感じた。あわせて、異文化理解やコミュニケーション能力を磨くことの重要性を改めて認識した。さらに、営業体験として訪問した旅行会社や観光関連機関では、業界を超えて連携しながら課題を解決し、新しい価値を生み出す航空会社の役割を学んだ。これらの経験を通じ、私の進路はより明確になった。客室乗務員として空の上でお客様に寄り添うことも、グランドスタッフとして地上から安全と快適を支えることも、どちらも魅力にあふれている。共通しているのは「多様なお客様に笑顔と安心を届け、最高のサービスを提供したい」という思いである。今回のインターンシップを通じて、私は将来、エアライン業界に携わることを強く志望するようになった。本インターンシップは単なる業務体験にとどまらず、自らの課題を発見し、将来の方向性を具体的に描くための大きな一歩となった。今後は課題発見力や柔軟な対応力をさらに磨き、この経験を糧に成長を続けていきたい。そして、次世代へつなげる最高のサービスを提供できる人材を目指して努力を重ねていきたい。

〔株式会社JTB　マレーシア支店〕

企業海外インターンを通して成長したこと

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 8月25日～8月29日、9月2日～9月4日
実習時間 9:00～18:00

今回のインターンシップを通して、異文化環境の中で観光業における実務を経験し、多くの学びを得ることが出来た。特に大きく成長した点としては、計画を立てる難しさと、それを実行に移すための戦略的思考、国際的な視野を持って柔軟に対応する姿勢、信頼や安心を得るためのホスピタリティの重要性である。これらは、大学生活の中だけでは十分に得ることが出来ない経験であり、将来のキャリア選択にも大きくつながる学びであった。

まず、主な業務となったツアー企画では、観光客目線と運営側の視点の両方を考慮する必要があった。魅力的な観光体験を提供するには、単に無難な観光地を組み合わせただけでは不十分であり、移動時間や料金、天候の影響など多角的に検討することが求められた。最初は、計画が現実的でないことも多く、社員の方からのフィードバックを受けて修正を何度も重ねた。その過程で、自分の考えを客観的に見直し、改善していく姿勢が身についた。この経験を通じて、計画を立てることの難しさと同時に、それを実現に近づける戦略的思考の重要性を学んだ。

さらに、料金計算やメニュー表の整理といった業務では、情報を正確かつ効率的にまとめる力を磨くことが出来た。特に、エクセルを用いた料金計算では、関数を用いた計算や表の整え方に苦戦した。しかし、試行錯誤を繰り返す中で適切な方法を習得し、データを視覚的にわかりやすく提示するスキルが向上した。また、英語のメニュー表を日本人観光客向けに書き直す作業では、文化や言語の違いを意識しながら、伝わりやすさを工夫する必要があった。国際的な視点を持ちながら、柔軟に対応する姿勢を培うことが出来、自分の視野が大きく広がったと感じている。

最も勉強になったと考える、電話やメールでの問い合わせ業務では、ビジネスの現場ならではの体験をした。相手に誤解を与えないための表現や信頼感を持っていただくための言葉遣いに気を配る必要があった。特に、英語での電話の会話は、自分の発音や聞き取りに自信を持てず、情報を正確に聞き取る難しさに直面した。日本とは異なるビジネススタイルに対応し、必要なルールやマナーを押さえながら取り組むことに苦戦した。事前に仲間と準備をし、メモを取りながら確認するなど工夫を重ねながら乗り越えることができ、学生生活では味わえない緊張感と責任感を体験し、異文化コミュニケーションの面白さを再発見できた。

この実習で学んだことは、今後の学生生活、社会人になってからでも役立つと感じている。観光業界に限らず、計画立案力、情報整理力、国際的な視野などほどの分野でも求められる資質である。グローバル化が進む現代社会において、異なる文化や価値観を持つ人々と関わる力は欠かせない。この経験を土台にし、自分の強みを磨き、社会で活躍したい。

〔香芝市役所〕

官公庁インターンシップを通して学んだこと

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 8月25日～8月29日
実習時間 8:30～17:15

香芝市役所での5日間のインターンシップに参加させていただきました。私は市役所での業務内容を理解し、自己分析を深めることを目標として取り組みました。

今回のインターンシップは、人事課、議会義務局、図書館、介護福祉課、文化財課、保健センターでお世話になりました。様々な課や施設での実習を通し、市役所の業務内容の幅の広さを実感しました。課が変わることで業務内容は大きく異なり、また、市民の方々と関わる機会が多い課と、職員の方と関わる機会の多い課にも分けられると理解しました。お話を伺う中でも、部署異動で業務内容が変わることで、仕事に慣れることが大変難しいのだろうと思いました。しかし、どの課にも共通し、コミュニケーション力が重要であると思いました。関わるのが職員の方でも市民の方でも、失礼のない気持ちの良い対応が求められていると働いている方々を見て感じました。勤務されている職員の方々は、丁寧で相手を思いやる対応をされていました。そのため、自分自身には相手をよく見る力が必要だと感じ、今後コミュニケーションをとる際、意識せねばならないと考えました。

人事課で健康診断受付をさせていただきました。用紙に受付番号を記入しお渡しするという内容でした。しかし、人間ドックの申込方法に変更があり、それを知らない方に説明をする必要がありました。説明自体は私ではなく職員の方がするのですが、具体的な料金など詳しく聞かれることもありました。その際に、職員の方々がお互いに助け合い、受付がスムーズに進むようにされていました。このように、臨機応変に柔軟な対応をされていたことで、健康診断を受けに来た方も安心されていた。状況を見て冷静に対処出来ることが求められるのだろうと感じました。

介護福祉課で、「活力アップ教室」という市民の方の健康維持のために開催されている体操教室の見学をさせていただきました。教室が始まるまで参加されている市民の方々同士で親しげにお話しされており、この教室が単なる健康維持のためだけではなく市民の方々の交流の場でもあると知りました。また、職員の方も市民の方々に笑顔で好意的に話されているのを見て、この教室は職員の方にとって市民の方々の交流の場としても重要であるのだろうと考えました。実際に地域の方々と定期的に会うことで、健康であるかどうか知ることや信頼をもっていただくことも、介護福祉課で務めるには欠かせないのであると考えました。このように、体操教室のようなイベントを開催することで、市民の方々と深くかかわる機会をもつことも市役所で務める上で、なくてはならないのだろうと考えました。

今回のインターンシップは、貴重で有意義な体験となったと思います。また、質問に優しく答えていただき、空いた時間に気さくに話しかけていただけて、疑問も解消できました。学んだことを、これからの学生生活や就職活動に活かしていきたいです。

〔SMBC日興証券株式会社〕

企業インターンシップで得た学びと成長

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 8月25日～9月5日
実習時間 9:00～15:00

このたび、SMBC日興証券株式会社のインターンシップに参加させていただき、証券業界についての理解を深めるとともに、今後の学びやキャリア形成に大きな示唆を得ることができました。大学の講義や書籍から得られる知識と、実際の現場で働く社員の方々から直接伺うお話やグループワークを通じて体感する学びとでは、得られる気づきの質が大きく異なることを実感しました。

まず印象的だったのは、証券会社が単に金融商品を扱う場ではなく、企業や個人のお客様の資産形成を支援し、ひいては経済全体の発展を支える重要な役割を担っているという点です。金融というと数字や相場の変動に注目がちですが、根底には「お客様一人ひとりの人生や企業の成長に寄り添う」という使命があることを学びました。そのためには、専門的な知識や情報を正確に理解する力はもちろん、それを相手に分かりやすく伝えるコミュニケーション力が不可欠であることを強く意識するようになりました。

また、グループワークを通じて自分自身の強みと課題を見つめ直す機会をいただきました。限られた時間の中で意見をまとめ、発表に結びつける過程では、論理的な思考力と協調性が求められます。私は普段、部活動やゼミでリーダー的な役割を担うことが多いのですが、今回の実習では、他のメンバーの意見を引き出しながら合意形成を行う難しさを改めて感じました。同時に、自分が相手の話を受け止めつつ、的確に整理して発言することができた点は強みとして認識することができました。

さらに、社員の方々から伺った体験談の中で印象に残ったのは、「継続的に学び続ける姿勢」の重要性です。金融市場は日々変化しており、一度身につけた知識に満足するのではなく、常に新しい情報を吸収し続ける努力が求められることを知りました。これは大学での学びや今後の社会人生活においても共通する姿勢であり、自分自身も日々の学習や経験を積み重ねていくことで成長していきたいと感じました。

今回のインターンシップを通じて、証券業界の理解が深まっただけでなく、自分の将来像について考える大きなきっかけをいただきました。私はこれまで、金融という分野に漠然とした難しさを感じていましたが、実習を通じて、その仕組みや役割が少しずつ具体的に理解できるようになり、自分の視野が広がったように思います。そして、どのような進路を選ぶにしても「相手に寄り添い、信頼を得られる人間でありたい」という姿勢を大切にしていきたいと考えるようになりました。

最後に、このような貴重な学びの場を提供してくださったSMBC日興証券株式会社の皆様に、心より感謝申し上げます。今回得た気づきを今後の大学生活や就職活動にしっかりと活かし、社会に貢献できる人材となれるよう努めてまいります。

〔富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社〕

企業インターンシップレポート

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 8月18日～8月29日
実習時間 9:30～16:00

私は、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社京都支社でのインターンシップを通じて、実務経験を積むとともに、社会人としての基本的なスキルや考え方を学ぶことができました。また、他大学の学生と協同で業務を進める中で、その重要性やコミュニケーションの大切さを実感しました。さらに、実習の中で自分の強みや課題を再認識し、今後の成長に向けた意識を高めることができました。

インターンシップでは、他大学の学生とグループを組み、協同で業務を進める機会がありました。初めての協同作業であり、メンバーそれぞれの考え方の違いに戸惑う場面もありましたが、意見を尊重し合い、協力して課題に取り組むことで、チームワークの大切さを実感しました。特に、印刷会社への営業訪問においては、事前のヒアリングや提案プレゼンテーションをチームで分担し、情報共有を密に行うことで、効率的に業務を進めることができました。この経験を通じて、他者とのコミュニケーション能力や協調性の重要性を再認識しました。

そして営業訪問ではその他にも、印刷会社の担当者から直接ヒアリングを行い、ニーズを把握した上で提案を行う機会がありました。その際、相手の話をよく聞き、適切な質問を投げかけることで、潜在的なニーズを引き出すことができました。提案内容についても、相手の立場や状況を考慮し、わかりやすく説明することを心がけました。この経験を通じて、提案力やプレゼンテーションスキルの重要性を実感するとともに、相手の立場になったコミュニケーションの大切さを再認識しました。

総括して、今回のインターンシップを通じて、社会人として必要な基本的な姿勢や、他者と協力して物事を進める大切さを学ぶことができました。特に、他大学の学生と協同で活動する中で、異なる視点や意見を尊重しながら作業を進める経験は、今後の社会人生活においても非常に役立つと感じています。この経験を踏まえ、今後の就職活動では、自分の強みを活かせる分野や職種を慎重に見極めていきたいと考えています。具体的には、情報を整理し、わかりやすく伝える力や、協働して課題を解決する力を活かせる職場で働きたいと思っています。また、インターンシップで感じたように、相手の立場や状況を考えながら行動できる能力は、どの企業でも重要なスキルであるため、自己PRや面接でもしっかりとアピールしていきたいと考えています。今回のインターンで企業の文化や業務の流れを実際に体験することができ、就職活動での企業選びや職種選びの参考になりました。つきましては、今後もさまざまな企業や業界のインターンシップや情報収集を通じて、積極的な姿勢で参加し、自分に最も適したキャリアを見つけるための学びを深めていきたいと思っています。

【日本航空株式会社　バンコク支店】

企業

航空会社の役割についての考察

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 9月1日～9月5日
実習時間 9:00～17:00

私は今回の実習を通して、多くの学びを得ることができました。その中でも最も大きな気づきを一言で表すなら、「航空会社は単に移動を提供するだけでなく、人々が新しい世界へ踏み出す『きっかけ』を生み出す存在である」ということです。本レポートでは、実習を通じて、得た学びを振り返り、どのように「きっかけ」というキーワードと結びつけたのかを整理したいと思います。

第一に、支店長のリーダーシップから「組織の雰囲気をつくる力」の重要性を学びました。現場で働く皆様がいきいきと業務に取り組まれている姿を拝見し、その背景には支店長の温かく力強いリーダーシップがあると納得しました。また、最終日のプレゼンテーションでいただいた「きっかけの大切さ」という問いかけを通じて、自身の留学経験を振り返る機会にもなりました。私自身、留学をきっかけに行動範囲や視野が大きく広がったように、航空会社もまた、一人ひとりの挑戦の背中を押す役割を担っているのだと認識が高まりました。

第二に、副支店長や客室乗務員室主任からは、現場での学びを通して「お客様に寄り添う姿勢の重要性」を実感しました。緊急のトラブルで不安そうにされていたお客様に落ち着いて対応される姿や、日本語が十分に話せないお客様に丁寧に説明される様子を間近で拝見し、現場のチームワークや細やかな配慮が安心感を生み、円滑なサービスにつながるのだと学びました。そのような対応は単なる業務を超え、お客様にとって新しい体験や挑戦への「きっかけ」となります。飛行機に乗ること自体が新しい世界への一歩であり、夢や希望の象徴であるからです。実習を通じて所作や対応を学ぶことで、将来、客室乗務員として成長するための具体的な学びを得るとともに、誰かの挑戦や夢の一歩に寄り添うことの大切さを改めて実感しました。

以上の経験を通じて、「航空会社は人々に挑戦の『きっかけ』を提供する存在である」という理解をさらに深めました。周囲には手続きや言語の不安から海外に出られない人も少なくありません。だからこそ、安心して挑戦できる環境を整えることは、航空会社の極めて重要な役割であると考えます。今回のインターンシップで得た学びは、私にとってかけがえのない財産です。今後もこの経験を糧とし、社会人として、そして客室乗務員として、成長を重ねていこうと思います。

【日本航空株式会社　バンコク支店】

企業

航空会社で働くとは

表象文化学部　英語英文学科　3年次

実習期間 9月1日～9月5日
実習時間 9:00～17:00

私は将来、航空会社で働くことを希望しており、残りの学生生活で身に付けるべきスキルを明確にするため、日本航空株式会社バンコク支店のインターンシップに参加いたしました。業務を体験することで働くイメージを膨らまし、また、海外で働くとは何かを、楽しさや困難さを合わせて学びたいと考えました。

このインターンシップでは、各セクションの方々から、業務内容に加え、仕事との向き合い方ややりがいを感じる瞬間についてお話を伺うことができました。さらに、実際のハンドリング業務も体験させていただき、接客の難しさと重要性を身をもって知ることができました。そして最終的には、バンコク支店が抱えている問題に対してのプレゼンテーションを行いました。この5日間で学んだ航空会社、及び海外で働くに当たって大切にすべきと感じたことは、主に二つあります。

一つ目は、どのような「人」でいるかということです。営業体験で株式会社JTBに伺った際、日本航空株式会社を選ぶ理由を「人」だとおっしゃっていたことが大変印象に残っています。営業として、信頼関係の構築やホスピタリティを提供することはもちろんのこと、最終的な決定を左右するのは「どの会社か」ではなく、「どの人か」だと伺い、強く心に残りました。さらに、出国便ハンドリング体験時、在留カードを紛失されたお客様がいらっしゃいました。入国することができないとかなり焦っておられました。その際、姿勢を低くし、座っていらっしゃるお客様と目線を合わせ、落ち着いたスピードと丁寧な話し方で対応されていました。お客様の焦りや不安に寄り添い、安心感を与えるその姿勢に、言葉以上の信頼を感じる対応とはこういうものだと思いました。

二つ目は、強みを活かしながら、お客様のニーズに応じた課題解決を行う姿勢の重要性です。課題の一つとして挙げたのは、タイの方々が夏に日本を旅行先として選ばない傾向があるという点でした。この問題を解決するにあたり、データだけでなく、タイの方の旅行スタイルの特徴や、夏に日本を訪れない理由といった根本的な背景を理解することの重要性を学びました。その過程で、バンコク支店で働く多くのスタッフがタイ出身であるという環境の中で、現地の方のリアルな声を直接お伺いすることができるという海外支店ならではの強みを実感しました。実際に働く人々から文化的背景や消費傾向を聞き取ることで、分析だけでは得られない視点を得ることができると感じました。お客様が本当に求めているものを把握し、それに即した企画や提案を行うには、まず相手を深く知ることが不可欠であると学びました。

5日間という短い期間ではありましたが、多くの方から貴重なお話を伺い、大変有意義な時間となりました。この経験を通じて、相手の立場に寄り添い、行動できる力を、これからの学生生活の中で意識的に磨いていこうと、自分なりの道筋を立てることができました。また、現場で働く方々から教えていただいた「利他の心」を持つことの大切さは、今後の人生においても指針となる学びでした。

【株式会社JTB　マレーシア支店】

企業

インターンシップを通して得たこと

表象文化学部　英語英文学科　2年次

実習期間 8月25日～8月29日、9月2日～9月4日
実習時間 9:00～18:00

私は今回、株式会社JTBマレーシア支店でインターンシップに参加しました。目的は、異文化の中で観光業務を実際に体験し、国際的な視点を身につけることでした。観光業は、単に旅行を企画・運営するだけでなく、文化や気候、現地の人々の考え方を理解し、旅行者が安心して楽しめる環境を整えることが求められます。その現場を直接見ることで、教科書だけでは得られない多くの学びがありました。実習では、主にツアーの企画書の修正や観光地の情報更新、現地ツアーの付き添いなどを行いました。

特に印象に残ったのは、世界遺産都市マラッカでのツアー同行です。マラッカはポルトガル、オランダ、イギリスなど、さまざまな国に支配されてきた歴史を持ち、街並みにはその影響が今も残っています。オランダ広場をはじめ、赤い建物や石畳の道、教会などから、長い歴史の中で育まれた多文化共存の姿を見ることができました。青曇亭では、宗教の多様性を象徴する文化に触れました。入り口が三つあり、真ん中には仏教の観音様、右には道教の商売の神様、左には儒教の海の神様が祀られています。建物は300年以上前に建てられ、材料には黒炭が使われているため、今でもしっかりとした形を保っています。修復の際には、割れた部分を集めて再利用するという伝統的な方法が用いられており、文化財を守り続ける地元の人々の努力に感動しました。マラッカは北緯3度に位置しており、日差しが非常に強く、歩くだけでも体力を消耗しました。ガイドの方は常に日陰へ誘導したり、休憩をこまめに取ったりと、観光客への配慮を忘れませんでした。こうした細やかな気遣いが、ツアー全体の満足度を高める大きな要素であると知りました。また、気候や文化の違いを考慮したスケジュール管理の重要性も学びました。川沿いでは10～15隻ほどの船が行き交い、野生のミズトカゲやネズミなども見られ、自然の豊かさを感じました。マングローブの木から備長炭を作るなど、自然と共存する地域の知恵にも触れることができました。食事面では、スパイスの効いた料理が多く、日本人にはやや辛いと感じることもありましたが、ローカル料理を体験することでマレーシアの多民族文化をより深く理解できました。このツアーは、日本人観光客にも非常に向いていると思いました。歴史、文化、自然を一度に楽しむことができ、ガイドの方も丁寧に安心感があります。一方で、暑さや長時間の移動は体力的に負担がかかるため、冷房のある休憩所を増やすなど、快適さを工夫することが望ましいと考えました。

実習全体を通して学んだのは、「ツアーは現場が最も大切」ということです。机上の企画だけではわからない問題が多く、実際に現場に立つことで初めて気づける点がたくさんありました。例えば、日差しの強さやトイレの位置、観光客の歩くスピードなど、細かい部分への配慮が満足度に直結することを理解しました。今回のインターンシップを通して、観光業の魅力と奥深さを改めて実感しました。ツアーガイドやスタッフの方々が、観光客の笑顔のために一つ一つの仕事を丁寧にを行う姿に強く感銘を受けました。今後は語学力や異文化理解をさらに高め、観光を通じて日本と世界をつなぐ役割を担えるよう努力していきたいと思います。

日本語日本文学科

【株式会社新通】

企業

インターンシップ実習を終えて

表象文化学部　日本語日本文学科　3年次

実習期間 8月15日～8月20日
実習時間 9:30～18:30

株式会社新通で5日間にわたり、インターンシップ実習をさせて頂きました。この実習では①広告業界について知ること、②プレゼンテーションを通して意見を伝える練習をすること、③この実習から自己理解を深めることの3つを目標にしていました。

5日間にわたり様々な部署の方やOBの方から話を聞くことができ、また、実際にプレゼンテーションを担当の方にみてもらうことでコンペ体験をすることができたため、①広告業界について知ことは達成できました。

プレゼンテーションが2種類あり、一つは個人作成、もう一つはペアで対抗戦のようなものでした。順位が決まるので、②プレゼンテーションを通して意見を伝える練習は大いにすることができました。アイデアをまとめて、長時間かけてパワーポイントを作成し、セリフも考えてと、やらなければいけないことが沢山ありましたが、その分本番で全力を尽くすことができました。

パワーポイントのデザインや完成図もプレゼンテーション力において必要な分野なので、そこが自分にとって課題であることも発見することができました。

③この実習から自己理解を深めることもやや達成することができ、勤務時間以外の部分も考えて、広告業界で生きていくこと、社会人としての生活を送る上で何が苦手で、何を大切にしたいかを明確にすることができました。この5日間は疲れが取れず、プレゼンテーション準備時間も限られていた為、睡眠不足が続いたので、自己管理の大切さとキャパシティを知る良い機会になりました。今後インターンシップに参加し、就活解禁で面接を沢山受ける時期には、何より体調優先で行動しようと思います。

今回は、広告業界の第一線で活躍しているの方にプレゼンテーションという形で携わらせていただきました。その方がコンペで勝ち取った案件であり、責任も重く、良いプレゼンテーションをしようと思気込むことができました。広告業界はイベント業でもあるので、仕事の忙しさに波があることは承知していましたが、実際にプレゼンテーションのために動き始めると、休日と退勤後の時間を返上してプレゼンテーション作成に注力するので、かなり体力のいる業界であると感じました。起きている時間はすべて広告に時間を使っていた記憶があります。

特にコンペは他企業と競いあって勝ち取らないと仕事にならないので、自分のアイデアに圧倒的自信を持つことができる、そして、何度も挑戦できる気概がある人にとって、ぴったりの業界だと思いました。目まぐるしい情報社会の中で先駆者であり続けることの難しさを痛感しました。

個人的にはかなり忙しい5日間を過ごしました。しかし、この体験が今後の自信にもつながり、また、就活の軸も明確になりました。憧れや理想だけで就活をするのはかなりリスクがあるので、インターンシップ実習に参加できたことは自分にとってかなり意味のあるものだったと思います。

社会人基礎力は、就活だけでなく、就職後もずっと大切なことですが、その練習にもなった実習でした。

一人でうまくやろうとするとつらくなってしまうので、誰かに相談することは特に重要だと思います。また、最後までやり遂げられたことは自信につながりました。とても良い経験になりました。

〔静岡エフエム放送株式会社〕

企 業

インターンシップを通して学んだこと

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

実習期間 8月18日～8月22日
実習時間 9:30～18:00

私はこれまでラジオを聞く機会がありませんでしたが、地元で長年親しまれてきた放送局であるK-MIXに関心を持ち、今回インターンシップに参加しました。

今回のインターンシップを通して、私は大きく三つの学びを得ました。一つ目は、情報を正確に伝えることの大切さです。番組制作の現場では、一つひとつの情報を何度も確認し、間違いがないように放送が作られていることを知りました。放送は一度流れると訂正が難しく、誤りが許されないため、多くの人が何回も内容をチェックしています。正確な情報を届ける努力が、リスナーの信頼につながっていることを強く感じました。また、災害などの緊急時には、リアルタイムで情報を発信する役割を担っているため、より正確な情報というのが重要になっていることを学びました。

二つ目は、ラジオならではの表現の力です。実習中、急遽ラジオ番組に出演する機会をいただきました。パーソナリティの方にサポートしていただきながらでしたが、自分の言葉で話すことはとても緊張して、時間を確認する余裕もなく、ただ質問に答えることで精一杯でした。一方、パーソナリティの方は、聞いているだけで目の前にあるものを想像させるような言葉選びを瞬時にされていて、そのすごさがより理解できました。

三つ目は、多くの人が携わって、ラジオ番組が成り立っているということです。以前は、ラジオに対して、パーソナリティとリスナーの交流の場というイメージを持っていました。しかし、実際の放送は、パーソナリティやレポーターだけでなく、ディレクター、プロデューサー、技術スタッフなど様々な人が関わり合うことで、番組として仕上がっていました。

また、ラジオ局を運営していくためには、スポンサーを獲得する営業部門や、番組の企画を考える制作、SNSを活用してリスナーに喜んでもらえる仕組みを工夫する広報など、多方面の働きが欠かせないと学びました。一つの番組は、こうした多くの人の力を結集して成り立っていることを理解し、改めてチームワークと役割分担の大切さを実感しました。

これらの学びを通して、ラジオ局の仕事は単に番組を作るのではなく、正確性・表現力・協働力を組み合わせ、人々に価値ある情報を届ける営みだと理解しました。将来、社会の中で人と人をつなぐ仕事に携わりたいと考えています。そのため、今回の経験を活かし、大学生活の中でも自分の意見を積極的に発信し、情報を伝える力を磨いていきたいと思います。

短い期間ではありましたが、普段触れることの少なかったラジオの世界に実際に入り込み、多くの学びを得られたことは大きな財産です。今回の経験を通じて培った視点を、今後の学生生活、さらには将来の進路選択に生かしていきたいと考えています。

〔株式会社日本旅行〕

企 業

インターンシップを通して学んだこと

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

実習期間 8月18日～8月22日
実習時間 10:00～17:00

私は株式会社日本旅行で、5日間のインターンシップに参加させていただきました。実際に社会の現場で働かれている方々と関わることで、大学生活の中では得られない知識を身につけられ、貴重な経験を積むことができました。

この実習を通して学んだことが三つあります。一つ目は、コミュニケーション能力とは対話能力だけを指すのではないということです。私はこれまで「話す力」や「説明する力」、「聞く力」がコミュニケーション能力だと思っていましたが、営業に同行させていただいたことでその考えが変わりました。訪問先では打ち合わせが行われることが多かったのですが、挨拶のみ行っているときもありました。なぜなのか疑問に感じていましたが、社員の方がやり取りする様子を間近で拝見し、挨拶などの少しの会話が信頼関係を築く大事な積み重ねになるのだと気づきました。顔を出すこと自体が「覚えてもらう」「これから関係を築こうとしていることを示して安心してもらう」きっかけになることを知り、人との関係づくりの奥深さを感じました。

二つ目は、“お客様のことを考える”という姿勢の難しさです。修学旅行と社員旅行の旅程作成業務を経験した際に、強くそう感じました。言葉にすると簡単ですが、実際には、年代や興味のある場所、体力面などさまざまな要素を踏まえて調整する必要がありました。移動に時間をかけすぎると観光の時間が短くなり、効率を重視すると無理のあるスケジュールになってしまうなど、理想と現実のバランスに苦労しました。だからこそ、「どうすればお客様に楽しんでもらえるか」「お客様の理想を叶えつつ安心できるプランを作成するにはどうしたらいいか」を追い求める姿勢が旅行会社にとって何より大切だと理解しました。

三つ目は、会社を陰で支える役割の重要性です。交通機関や宿泊施設の予約といった事務作業を経験し、一つのミスが全体の計画を大きく狂わせてしまう可能性があることに気づき、責任の重さを感じました。こうした仕事が正確かつ迅速に行われているからこそ、営業の方が安心して提案や対応に集中でき、その結果、お客様に満足していただける旅に繋がっていると知りました。お客様の目には直接触れにくい部分ですが、全体が円滑に進むために欠かせない役割だと気づきました。表に出ている部分だけでなく、その裏で支える役割があってこそ、組織が円滑に動いているのだと理解できたことは、私にとって非常に大きな学びでした。

今回のインターンシップを通して、“働く”とはどういうことかを肌で感じ、具体的に思い描けるようになりました。この経験を活かし、将来についてしっかりと考え抜いたうえで、就職活動を進めていきたいです。

〔SMBC日興証券株式会社〕

企 業

信頼を得ることの重要性

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

実習期間 8月25日～9月5日
実習時間 9:00～15:00

この実習でのいちばん大きな収穫は、信頼を得ることの重要性を学んだことです。10日間、様々なプログラムをご用意いただき、今までにない貴重な経験をさせていただきました。社員の方々のお話を聞く機会をいただき、グループワークを通して、他大学の学生と交流した実りある実習となりました。

実習に参加するにあたって、2つの目標を掲げました。1つ目は、「大学の講義では学ぶ機会のない金融の知識を深め、社会人として必要な力を身につけること」です。この目標は、毎日の日経新聞読み合わせやマーケット体験ゲームでの市場体験により達成することができました。毎朝、日経新聞を読み、社会の情勢や今後の見通しを考えることは、変動する株式を商材として扱う証券会社では必要です。今後も、国内のみならず国際社会や経済へ関心を持ち続けます。また、ゲームを通じてマーケットや価格の役割、リスクやリターンといった金融・経済の仕組みを楽しみながら学びました。リスクの大小を把握しておくことの重要性やマーケットへの理解が深まりました。

2つ目は、「グループワークでは積極的に役割を担当し、自ら吸収する姿勢で臨むこと」です。グループワークは「10年後、時価総額の上昇率が最も高い企業」というテーマで、発表準備を進めました。私は金融の知識がほとんどなく、チームに貢献できるか不安でしたが、休憩時間に積極的に会話をすることで打ち解け、最後まで良い雰囲気を進めることができました。私は主に進行・書記・タイムキーパーを担当し、話し合いが円滑に進むよう意識しました。その結果、限られた時間の中ででしたが余裕をもって発表当日を迎え、最終的なプレゼンテーションの順位では優勝することができました。目標である自分にできる役割を果たし、話し合いを通して他大学の学生と交流を深めた、忘れられない経験となりました。

また、部署・業務紹介では様々な部署の社員の方々が登壇してくださり、お話を聞く機会をいただきました。証券会社で働く方々がどのような仕事を行っているのか、日々意識していることは何かをお聞きする中で、個人間のやり取りでは信頼を得ることが重要だと感じました。身だしなみや情報収集などの事前準備を徹底し、お客様へのフォローを行うことでお客様のパートナーとして共に長く進むことができると考えました。

そして、信頼を得るためには変動する市場への理解が必要だと思います。法人部法人課の皆様が担当してくださった金融基本講座では、NISAや不動産投資信託など資産運用についての知識を習得しました。学生のうちから金融の知識を持つことは、ライフプランを立てるうえで役立つほか、リスク管理につながると思います。

最後になりましたが、法人部法人課の皆様にはお忙しい中大変お世話になりました。ご準備いただいたプログラムにより、充実した実習を送ることができました。10日間、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

〔明治安田生命保険相互会社〕

企 業

営業とは聞くこと

表象文化学部 日本語日本文学科 3年次

実習期間 9月1日～9月5日
実習時間 10:00～17:00

今回のインターンシップを通して、営業の仕事は「話す力」よりも「聞く力」が重要であることに気づきました。営業はコミュニケーション力が大切だというイメージがありましたが、コミュニケーションができるということは、自分自身が話すことではなく、相手の話を引き出す能力だと感じました。お客さまの状況や気持ちを丁寧に聞き取り、そのうえで最適な提案を行う姿勢が信頼関係の土台になることを学びました。また、準備した提案が必ずしもすべて伝えられるわけではなく、相手の要望や会話の流れに応じて、柔軟に対応する必要があるという営業の難しさも実感しました。

さらに、保険という仕事の意義を「社会的な視点」から考えることができました。保険は単なる商品ではなく、病気・老後・就業不能など、人生におけるリスクに備える大切な仕組みであることを理解しました。社会全体への貢献と同時に、お客さま一人ひとりの安心を支えるという点で、社会的な意義を知ることができました。

また、「まず自分が知ることの大切さ」を強く実感しました。お客さまに信頼してもらうためには、保険の知識だけでなく、人生に関わる幅広いリスクや制度について、自分が深く理解しておく必要があります。女性特有の病気や働きなくなった時の公的な支援など、保険そのものだけでなく、もしもの場合の心身への影響と金銭的な負担について学ぶことで、保険の重要性への理解が深まり、お客さまへの提案においても、相手に寄り添った内容で、資料やデータを伴い納得できるものになると実感しました。自分が理解して初めて、相手にわかりやすく、説得力をもって伝えられるということを学びました。

雑談やコミュニケーション面では、相手に興味を持ち、反応や質問を通して会話を深掘りしていくことが大切だと学びました。反応や深掘りの質問は、相手の考えや情報を引き出すためにとても大切なことだと理解しました。雑談は単なる会話ではなく、信頼関係を築くきっかけになるものであると気づき、今後の対人関係にも役立つ学びとなりました。

さらに、グループワークを通して、チーム全体の成果を意識して行動することの大切さも学びました。自分一人で考え行動するだけでなく、周囲を巻き込み協力し合うことで、個人の意見がまとまり、さらに深いところまで考えることができるようになり、より良い結果を生み出せることを実感しました。

最後に、自分自身の強みを再発見できたことも大きな学びでした。実習やフィールドワークを通して、与えられた情報を組み合わせ、深く考え、先を見据えて提案をつくる力が自分の持ち味であると気づき、自信につながりました。今回の経験を通じて、相手に寄り添い、信頼を築きながら課題を解決していく営業職の魅力を改めて感じました。これらの学びを、これからの学校生活や就職活動に活かしていきたいと思います。

人間生活学科

企業

自分の可能性を感じたインターンシップ

生活科学部 人間生活学科 2年次

【株式会社エスワイシステム】

実習期間 8月18日～8月22日
実習時間 9:00～18:00

私は今回、株式会社エスワイシステムにて、5日間のインターンシップに参加させていただきました。もともと、IT業界に興味があったのですが、業界についての知識があるわけではなかったので、実際の業務を通して知識を得られたらと考えていました。また、就職活動が本格化する前に、社会人基礎力を少しでも身につけ、高められたらと思い、参加を決断しました。このインターンシップへの参加を通して、業界への理解を深めるとともに、チームで働くために必要な力を身につけるなど、貴重な経験を積むことができました。

今回のインターンシップでは、メインの取り組みとして、グループワークでハンバーガーショップのHPを改修し、プレゼンテーションを行いました。HP改修をインターンシップ生だけで行うため、初日にHTML基礎講座で、HTMLとCSSの基本的な概要説明から、課題に沿っていくつかプログラミング演習を行いました。また、グループワークの合間にSE研究や社員の方、社長様との交流会、案件紹介等、IT業界やエスワイシステムについての知識を深める機会があり、SEとして働くことの解像度を高めることができました。

グループワークで、私はリーダーを務め、プロジェクトの進捗管理と社員の方への報告を担当しました。リーダーを務めたことで、進捗管理の重要性について身をもって知ることができました。今回のグループワークは、一班4人だったため、全員で話し合う機会も多く、進めやすかったのですが、それでも課題に対する認識の違いなどが多々あったことから、大人数となると管理がより重要になるだろうと理解しました。

今回、一番苦労したことは、プログラミングです。HPの改修は、プログラミング経験がない私にとって、難しく、手持ち無沙汰になってしまう時間がありました。他のインターンシップ生は大学でプログラミングを行っていたので、色々助けてもらっていたのですが、プログラミングは個人ワークになる点が多く、ずっと頼り続けることはできませんでした。そのような状況で、自分なりに調べ、初日の講座で学んだことを思い出して取り組んでみると、案外プログラミングでき、最終的には、元々担当していた求人ページの作成に加え、トップページに占い機能を付け加えたり、トップページの画像を作成したりと、自分の力で色々取り組みことができました。このことから、分からないことでも自分なりに調べて取り組むことの大切さを知りました。

このように、インターンシップを通して、目標として設定したことはもちろん、それ以外にも多くの発見や学びを得られました。不安なことも多かったのですが、思い切って参加し、最後までやり切ったことで、自分自身、さらに成長できたと思います。プログラミングの技術しかり、IT業界は常に勉強し続けなければならない業界なので、今回得た知識を活用し、引き続き学び続けていきたいと思います。

食物栄養科学科

官公庁

政策形成を支える調査と行政の現場を学んで

生活科学部 食物栄養科学科 3年次

【豊中市役所】

実習期間 9月1日～9月5日
実習時間 9:00～17:00

9月1日から9月5日まで、豊中市役所都市経営部および、とよなか都市創造研究所にて、インターンシップに参加した。短いインターンシップ期間の中で、「市役所での業務の理解と経験」および「シンクタンク業務におけるインタビュー等の情報収集・分析能力の向上」という二つの目標に取り組んだ。最終的に、そのいずれの目標も達成できたと感じている。

第一に、市役所での業務について理解を深めることに関しては、実務体験に加え、日々多様な業務に携わる職員の方々から直接お話を伺う機会を得られたことが、非常に貴重であった。この経験はキャリア形成に大きな影響を与え、市役所勤務を進路の一つとして考える契機となっただけでなく、自分に適した働き方や関心のある分野を見直すきっかけにもなった。市役所という行政機関が担う多様な役割を現場で体験したことで、今後は公共性の高い分野での進路を軸に据えたいと考えるようになった。

第二に、シンクタンク業務における情報収集・分析の必要性と具体的な手法を身につけることができた。インターンシップでは、まず基礎情報やアンケート調査の方法・分析方法について、実際の研究報告を用いて、研究員の方から直接説明を受けることができ、大変有意義な時間となった。また、実際に進められている研究に関するワークに参加し、人々の生活を考える視点を養ったり、インタビューを実施したりすることで、今後の調査研究活動につながる学びを得られた。行政の場においても調査・分析がいかに重要であることを理解するとともに、調査手法やインタビュー技術を体験することで、自身の研究活動や将来の職務に直結する実践的なスキルを身につけることができた。こうしたスキルは、課外活動において、より効果的なイベント企画や意識調査をする為に役立つものであり、今後の有意義な大学生活へと繋げたい。

さらに、事前に予想していなかった学びも数多く得ることができた。例えば、用意していただいたプログラムに加えて、インターンシップ生の疑問や関心にも丁寧に対応していただいたことで、業務内外の疑問を解消し、次のステップへのヒントを得られた。レポートや発表に対しても具体的かつ建設的なフィードバックをいただき、それが今後の学生生活や就職活動、さらには社会人としての業務に活かせる重要な気づきに繋がったと感じている。

また、同時期に参加した他大学の学生との意見交換からも大きな刺激を受けた。視野を広げ、自分の学びを客観的に振り返り、新しい視点を取り入れる機会となった。

総じて、このインターンシップは、自らの能力や価値観を見直し、今後のキャリア形成に一層の具体性と意欲をもたらす貴重な経験となった。また、今後必要となる課題解決能力や協働力を強化できたと考えている。インターンシップ全体を通じて得られた学びは、単にキャリアを考える上での材料となるだけでなく、大学生活における研究・課外活動・人間関係に広く応用できるものであったと理解している。

【株式会社DAY TO LIFE】

企業

12日間の学びと成長

生活科学部 食物栄養科学科 2年次

実習期間 8月11日～8月29日
実習時間 9:00～18:00

私は株式会社DAY TO LIFEにて12日間のインターンシップに参加させていただきました。実店舗の勤務から始まり、商品企画、新業態開発のプレゼンテーション大会など、多岐にわたるプログラムを通じて、毎日新たな学びや気づきがあり、仕事理解・自己理解が深まったと感じます。中でも特に印象に残ったのは、商品開発の裏側にある現実を知ったことと、最終日のプレゼンテーションを通して発信力の重要性を理解できたことです。

商品開発という仕事に対して、「自分のアイデアを商品化して全国のお客様に届ける楽しそうな仕事」という憧れを抱いて目指してきました。しかし、実際に社員の方々から話を聞き、アイデアを形にして収益化するまでの具体的なプロセスを学ぶことで、そのイメージは大きく変わりました。ターゲットの行動や心理を徹底的に分析してニーズを捉えるだけでなく、商品名や原価計算、材料の仕入れなど、1つのシュークリームが店で販売されるまで、たくさんの壁を乗り越える必要があることに大きな衝撃を受けました。華やかさの裏にある地道な分析や戦略を理解したことで、商品開発を単なる憧れの対象としてではなく、自分がどこに魅力を感じ、どのように関わりたいのか、一歩引いた視点から考えることの重要性を理解できました。

そして、このインターンシップで大きな学びとなったのは、最終日に行われた新業態プレゼンテーション大会です。グループで2日間かけて練り上げたアイデアを、限られた時間の中で聞き手に分かりやすく、かつ魅力的に伝えることの難しさを痛感しました。特に自分たちの発表では、ペルソナのインサイトをうまく言語化できなかったこと、熱意やワクワク感を十分に表現できなかったことが反省点として残りました。他のグループの発表を見て、同じ条件下でも伝え方や表現の工夫次第で聞き手の心を動かせることを認識し、悔しさを感じた一方で、大きな刺激となりました。この経験を通じて、プレゼンテーションは一方向的な単なる説明でなく、聞き手に共感や納得感を与えることが必要だと学びました。相手の立場になり、どのように伝えれば心に届くのかを意識して、堂々と表現することの大切さも強く感じました。これらは大学生活における発表にも直結するスキルであり、今後は聞き手を意識した言葉選びや構成の工夫を積極的に実践していきたいです。

12日間のインターンシップで、普段の学業では知ることのできない、多くの学びを得ることができました。加えて、自分のキャリアデザインについて、ベアでフィードバックし合うことで、自己理解も深まりました。これまでは商品開発をしたいという狭い視点で将来像を漠然と描いていましたが、この経験を通じて、マーケティングや販促企画など、様々な方向から「食」にアプローチすることができるという考えを持つことができ、自分のキャリアの領域が広がりました。これらの経験は、私にとって大きな成長であり、将来を考える上での貴重な経験となりました。ここで気づいた自分の強みを生かして、今後どのように「食」に携わるのか、模索していきたいです。

【亀屋良長株式会社】

企業

貴重な経験ができたインターンシップ

生活科学部 食物栄養科学科 2年次

実習期間 9月12日～9月25日
実習時間 8:30～17:30

私は、亀屋良長株式会社で8日間インターンシップに参加させていただきました。参加しようと思った理由は主に2つあります。1つ目は、今の自分に足りないことは何かを考え、これからの大学生活の中で補う方法を見つけたいというものです。2つ目は、食に関わる仕事に就きたいと考えているので、食を扱う企業において大切なことは何かを学びたいというものです。

実習では、主に和菓子の製造補助をさせていただきました。また、御干菓子の袋詰めや店舗の見学、和菓子の体験教室など、たくさんの経験をさせていただきました。様々な経験をさせていただいたことで、それぞれの場所で働く方々の様子や雰囲気、働き方を知ることができ、その雰囲気を直に感じるすることができました。

インターンシップに参加するまでは、食品会社、しかも京都で有名な和菓子会社の製造で働く方々はどのような働き方をされているのか、想像もつきませんでした。最初に驚いたことは、何十種類もの商品を、1日に100個以上も手作業で作っておられたというものです。具材を切ったり、箱を組み立てたり、袋詰めしたりなど、1つ1つの細かいところまで手作業で行っておられました。丁寧な作業を心掛けることはもちろん、手早く作業することも求められることが多かったです。

インターンシップに参加し、食品を扱う企業では何に気を付けているのか、何を大切にしているのかなど、より具体的に理解することができました。衛生面だけでなく、商品の見た目に関しても、食べる人がどう感じるのかを考えておられ、見た目が悪いものや小さいものがお客様のもとへ行かないよう、1つ1つの商品を大切にしていることを学ぶことができました。また、製造では次の工程に必要なものを用意しているか、次に使う人がいないかなどの声掛けを頻繁に行っておられ、コミュニケーション能力や先読みする力、作業の流れを頭に入れておくことなどが必要だと理解しました。

インターンシップを経て、「聞くこと」や「作業への集中力」というものが身についたと思います。参加前は質問をする積極性があまりなく、集中力が続かないことが多くありました。しかし、インターンシップでは、分からないことをそのままにしておくミスにつながるため、積極的に質問をし、間違っていないかや次にするべきことを聞くことができました。また、集中力は3～4時間作業をし続けていたので、自然と身に付けることができました。普段では絶対にできないような貴重な経験を積むことができ、振り返ったときに「楽しかった」と思えるような経験でした。

今回のインターンシップでの経験を活かし、自分に足りないところを補い、「積極的」という言葉を意識しながら、より良い大学生活や就職活動を行っていききたいと思います。

メディア創造学科

〔滋賀県庁〕

官公庁 インターンシップで学ぶべきこと

学芸学部 メディア創造学科 1年次

今回、滋賀県庁総合企画部人権施策推進課のインターンシップに二週間参加させていただきました。メディア創造学科での学びが活かせる、またはインターンシップで学んだことをこれからの学科の学びに反映できるような研修内容である、人権施策推進課を希望しました。

私は一年次生ということもあり、インターンシップそのものの理解も不十分だったと思います。官公庁と民間企業との仕事内容の違いについても明確ではないまま、参加をしました。インターンシップの参加を決めた理由は、官公庁と民間企業の違いといった基本的なこともイメージを持てていないため、一年次生で官公庁、二年度生以降に民間企業のインターンシップを経験することで、自分の適性や職業選択をより明確にしたいと考えたからです。そして、この二週間の実習期間は今後の職業選択を考えると、本当に影響の大きい貴重な経験の連続でした。課内会議への参加、人権キャッチコピーの考案、里親制度実施地への取材同行、チラシやポスターのデザイン考案から作成までと、それらを配布する作業、湖沼会議が琵琶湖ホールで開かれ、その聴講や人権キャラクターの着ぐるみ体験、早朝から駅前での街頭啓発運動、フェスタ事前準備（高校や美術館などフェスタに参加される団体との会議に同席）など、人権施策推進課が長い期間取り組まれている活動に携わらせていただいたことで、一つ一つの仕事が課の仕事としてまとまり、一つずつの課の仕事が県政としてまとまっていくのだということが、日を追うごとにクリアに見えてきました。ポスターに使われる言葉の選択や図柄の配置といった大変細かな点について決定するために、何人もの方が何日にもわたり慎重に決定する様子は、私の中で印象的な場面でした。ここでは、色弱の方に配慮したポスターの完成のために話し合いが重ねられました。県庁でお勤めになる皆さんのこのような仕事に対する姿勢を学ばせていただいたのですが、初日は余裕が持てず、周りのことも見えないまま帰宅しました。二週間やり遂げることができたか不安になりましたが、翌日以降サポートいただきながら、少しずつ周りの様子が見えるようになり、あっという間に二週間となりました。同じようにインターンシップに来ている他大学の方の様子も見ながら、自分なりにできることを精一杯しようと思えるようになりました。

始業から終業まで毎日、何十年と仕事に向き合われている様子を、大学生として与えられている時間が貴重であることや、社会に出てから仕事と向き合う時間の長さについて実感が持てたため、自分はどのような仕事で、どのように役割を果たしていきたいかを広い視野で決定して、早く準備することが大切だと感じました。また、社会に出た際に役立つ力を実践授業で身につけられる学科を選択して良かったと改めて思いましたし、これから授業で学ぶことは仕事でどのように活かせるのか考えながら履修することができると思います。

インターンシップで学ぶべきことは、任せていただける仕事の一端だけではなく、研修先職員の皆さんの仕事に対する姿勢、そして現状の自分の力をしっかりと感じ取ることが最も大切だと思いました。

二週間サポートしていただいた人権施策推進課の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

社会システム学科

〔燕市役所〕

官公庁 実習を通して気づいた長所と短所

現代社会学部 社会システム学科 3年次

私は、地元である燕市役所のインターンシップに参加しました。参加を希望した理由は、地元での就職に関心があり、将来は市役所で働きたいという思いがあったためです。大学進学を機に地元を離れましたが、改めて燕市の人の温かさや住みやすさに気づき、非常に恵まれた環境で育ってきたことを実感しました。そのため、今後は燕市の魅力を守っていく仕事がしたいという思いから、今回のインターンシップに応募しました。また、大学では広報委員会に所属していることもあり、市役所の中でも特に、広報秘書課での実習に関心を持ちました。

実際に、広報秘書課に配属していただき、子ども広報の運営補助に携わりました。主な業務内容は、「会場設営」「子どもたちの編集作業の補助」「作業風景の撮影」などです。実習における目標は、「市役所の雰囲気をつかむこと」でした。市役所では部署異動が頻繁にあることから、広報秘書課に限らず、庁内全体の雰囲気を目を向けるよう努めました。

今回の実習を通じて、自分の長所と短所が明確になったことが、大きな学びとなりました。

実習初日には、職員の方から「子どもたちと積極的にコミュニケーションを取ること」と「子どもたちの名前を覚えること」を目標にするようご指示いただきました。私は子どもたちと積極的に関わろうと努めましたが、緊張してしまい、思うように行動することができませんでした。これまで子どもと接する機会が少なかったため、どのように心を開いてもらえるのか分からず、手探りの状態でした。他のインターンシップ参加の学生はすぐに子どもたちと打ち解けていたため、自分と比較して落ち込む場面もありましたが、職員の方がサポートしてくださり、大変ありがたかったです。初日は思うような成果を得られませんでした。実習期間中に少しでも成長したいという思いで、改善に取り組みました。

この経験から、「対応力」や「子どもとのコミュニケーション力」が今の自分にとっての課題であると気づきました。

一方で、自分の長所としては「大人とのコミュニケーション力」「事前準備を怠らない姿勢」「誠実さ」が挙げられると感じました。大学では接客業のアルバイトを経験しており、大人との会話には比較的慣れていたこともその要因の一つです。また、実習前には「広報とは何か」を自分なりに調べたり、礼儀やマナーを復習したりと、事前準備にも力を入れて臨みました。これらのことは、自分の強みとして再認識することができました。

今後の就職活動において、自分の課題を明確に意識しながら、短所と向き合い、改善に努めていきたいです。また、自分の適性を見つめ、自分に合った職種を見極めていく重要性も実感しました。その他にも多くの学びや気づきを得ることができ、大変貴重な経験となりました。この経験を今後の就職活動に活かしていきたいと思います。

オープンインターンシップ(大学協定型)
体験レポート ● ● ●

今回の体験を通して「更生」という言葉を再構築できた気がします。過去をなかったことにするのではなく、人と関わっていく中で新しい自分を築き上げる過程が更生だと思います。非行少年と呼ばれる彼らが、社会の理解と適切な支援が受けられることで、再び社会と繋がることができると信じています。私もその立ち直りを支えていけるような専門職員を目指していきたいと強く思いました。このような貴重な機会を提供してくださった職員の皆様に感謝いたします。

人間生活学科

〔高崎市役所〕			
官公庁	高崎市役所での学び		
	生活科学部	人間生活学科	3年次

私は、地元である高崎市に貢献したいという思いから、市役所の仕事内容について理解を深めたいと考え、本インターンシップに参加いたしました。

5日間のインターンシップでは、最初の4日間を総務部企画調整課で、最終日を建設部建築住宅課で過ごしました。総務部企画調整課では、自衛隊やふるさと納税、DX化など、業務が多岐にわたることを知りました。今回は、児童相談所と公共施設について報告します。児童相談所の設立について特に印象的だったのは、子どもたちの実情や職員の心理的負担、法律など様々なことに配慮しながら、建物の構造を考えておられる点です。利益を追求していないからこそできる、公的な立場から市民を第一に考えて仕事ができる公務員の在り方に、大きなやりがいと意義を感じました。公共施設の見学では、高崎芸術劇場や高崎アリーナを訪問させていただきました。高崎芸術劇場では、作るなら良いものをするという考えのもと、音響設計士による緻密な調整や床・椅子の素材、木目にまでこだわった設計がなされており、非常に感動しました。利用者からも好評を頂いているそうです。お金がかかったとしても良いものを作ることで、高崎市への新たな経済効果が生まれるということや文化的価値の大きさを学びました。高崎アリーナについても、充実した施設や立地条件から、世界大会や大規模イベントの開催地となっていることを知りました。私自身も学生時代によく利用していた施設であったため、背景を知ることにより一層の愛着が生まれました。

建設部建築住宅課では、空き家とそれに対応する補助制度について学びました。高崎市の補助制度は全国的に見ても手厚く、一方で相続人のいない空き家への対応や人手不足といった課題についても詳しく教えて頂き、行政の現場が抱える複雑さや難しさを認識しました。また、空き家を改修して作られたコーヒーマグ焙煎所を訪問し、情熱を持って働かれている店長の姿を拝見しました。補助金という形で情熱ある市民を支援し、地域を活性化させていく行政の役割の大きさとそのやりがいを強く感じました。

今回のインターンシップを通して、市役所の業務が市民の生活に深く関わり、地域の未来を支える重要な役割を担っていることを理解しました。どの職員の方も、丁寧で思いやりのある対応をしてくださり、私自身もこのような良い雰囲気の中で、市民に貢献できる仕事に携わりたいという思いが、より一層強くなりました。また、児童相談所について教えて頂く中で、福祉の分野にも関心を持つようになりました。今後は福祉行政についても深く学ぶとともに、公務員試験に向けて努力を重ねていきたいと思います。最後になりますが、本インターンシップでお世話になった市役所の職員の皆様には、心より感謝申し上げます。貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

〔和歌山県庁〕			
官公庁	インターンシップでの学び		
	生活科学部	人間生活学科	3年次

私は5日間、和歌山県庁自然環境課のインターンシップに参加させていただきました。将来は公務員として働くことを目標としており、このインターンシップを通して、実際の業務や県庁の雰囲気を体感し、県庁での働き方を学びたいと考え、参加を希望しました。

この5日間では、幅広い業務を体験することができました。1日目は、自然環境課の業務の説明を受けたり、職員の方々との意見交換を行ったりしました。直接職員の方々の声を聞くことができ、より理解が深まったとともに、非常に貴重な機会が得られたと思いました。2日目は、自然公園におけるオーバートゥーリズムの現状を調査し、遊歩道の荒廃箇所の復旧作業に参加しました。現地のNPOの方々や各市町村の職員の方々と協働することで、自然公園の環境は多くの方々の連携で成り立ち支えられていることを実感し、より自然環境保全への意識が高まりました。3日目は、特定外来生物の調査・捕獲作業に取り組んだほか、若手職員の方々との交流会に参加しました。県庁のさまざまな課での取り組みや、仕事のやりがいなどを伺うことができました。4日目は、特定外来生物の被害拡大防止のための啓発用ホームページ作成について、案を検討しました。より多くの人に情報が伝わるよう、言葉や構成を工夫するのに少し難しさを感じたとともに、重要な情報を発信するという責任の重さも理解できました。最終日の5日目は、インターンシップの集大成として「自然公園のオーバートゥーリズム対策」について発表しました。解決策の検討は難しく感じましたが、フィードバックをいただいたり、他のインターンシップ生の方々の発表を聞くことで、さらに自身の課題に気付くことができました。

5日間を通して、県庁での業務は非常に多岐にわたっており、県庁の職員だけではなく、市町村やNPO、地域住民など、多様な主体が連携して取り組まれていることが大きな気付きとなりました。和歌山県民であっても和歌山について知らないことが沢山あり、実際に現地に足を運び、地域の方々の声を聞き、課題解決に向けて協働することが重要であると実感しました。自然公園の現状調査では、来訪者の増加とともにさまざまな問題が生じていることを伺い、地域活性化と自然環境保全を両立することは課題であり、環境保全に対する一人ひとりの意識の必要性も学びました。

最後に、お忙しい中、インターンシップという貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今回の経験を通じて得ることができた学びを、今後の学業、キャリアに活かしていきたいと思います。

食物栄養科学科

〔広島市役所〕			
官公庁	広島市インターンシップ実習報告書		
	生活科学部	食物栄養科学科	3年次

私は、飲食店の許可業務や衛生指導に携わり、市民に対して正しい食品衛生の知識を普及、啓発することに強い関心があった。行政の視点から、食品衛生の課題にどのように取り組んでいるのか実際に体験し、学びを深めたいと考えていたため、インターンシップに参加した。インターンシップでは、実際のニュースを用いて、周りの機関との連携など食中毒の対応を学んだ。また、スーパーや飲食店、工場といった一つだけでなく、いくつかの食品業者の衛生管理の見学を行うなど、業務の説明や施設見学を通じ、食品衛生、環境衛生の業務について理解を深めた。

食品衛生に関する監視および検査は、厳格に実施されているが、職員の方々は食品業者の方や市民の方に、指導される場面であっても、言葉を選び、笑顔で対応されていた印象を受けた。食品衛生施設監視業務を見学したことで、食品指導に関して、検査は厳しい目でありながらも、指導する際は簡潔に物事を伝え、相手の立場になって考える必要があり、相手への伝え方の大切さを学んだ。また、スーパーや工場、飲食店などの食品関連事業者に対する衛生管理の指導といった業務を通じて、さまざまな食品業者に直接アプローチできる点は、この仕事の大きな利点である。一方で、食品関連事業者や市民の方々とのやり取りにおいては、衛生管理の必要性や法的根拠を分かりやすく説明し、納得してもらうことが難しい場面も多く、対応には高いコミュニケーション能力と柔軟な対応力が求められると実感した。特に、飲食店の監視業務を見学した際に、実際の調理場が提出されている図面と異なっていた場面では、私自身知識はあるものの、その状況でどのように対応すべきか判断できなかった。一方で、職員の方は現場の状況を的確に把握し、法令に基づいて臨機応変に対応されており、その姿勢から多くの学びを得た。これらの経験を通じて、現場で求められるのは単なる知識ではなく、現実の状況に応じて法令や規則を適切に適用し、相手に分かりやすく伝える力であると気づいた。今後は、現場対応能力と相手に応じた説明の工夫や伝え方を身につけることが、私にとっての大きな課題であり、目標であると考えている。

このような現場対応能力を身につけるために、日々のニュースや行政機関からの公表資料を通じて、食中毒事例や衛生問題に関する最新情報を収集する習慣をつけたい。加えて、それぞれの事例に対して、実際にどのような対応が行われているのかを調べ、関係する法令や行政指導の内容を自分なりに整理・分析することで、知識を実務に結びつける力を養っていきたい。また、日常の中でも他者とのコミュニケーションを通じて、自分の考えを相手にわかりやすく、かつ丁寧に伝えることが重要であると考えている。よって、アルバイト先の中で年齢や立場の異なる人と円滑にやり取りする機会を積極的に活用し、相手の立場に配慮しながら伝える力、傾聴する力を磨いていきたい。

〔滋賀県庁〕			
官公庁	行政栄養士の役割を体験して		
	生活科学部	食物栄養科学科	3年次

私は、大学で学んだ知識を活かし、行政の施策を通じて、国民の健康増進に貢献したいという強い思いがありました。今回のインターンシップでは特に、管理栄養士が健康づくりの推進にどのように携わっているのか、その具体的な役割と業務内容を深く理解したいと考えていました。

また、滋賀県庁で行われている行政と事業所が連携した健康経営の取り組みや、ライフステージに応じた健康サポートに関心があり、今回のインターンシップを通じて、行政の視点から健康課題解決のためのシステム推進に貢献できる知見を得たいと考えました。

2025年8月25日から9月5日までの2週間、私は滋賀県庁東近江健康福祉事務所 健康しが推進課でのインターンシップに参加させていただきました。この期間、講義から現場での実務まで多岐にわたる貴重な経験を通じ、行政における管理栄養士の職務の奥深さと社会的意義を再認識いたしました。

まず、講義では、行政での管理栄養士の役割や、保健所が果たす公衆衛生上の機能について理解を深めました。保健所の公衆衛生機能の中で、住民の健康を包括的に守るという使命感を強く感じました。

給食施設指導同行では、地域の給食施設を訪問し、栄養管理の状況や衛生管理に関する指導の実務に同行しました。担当していただきました清水様のお話や、同行されていた他部署の方のお話から、課題現場の方々と対話し、信頼関係を築きながら共に課題解決を目指す姿勢の重要性を学びました。

資料作成では、給食施設指導用資料として管理栄養士の配置比率などをデータでまとめ、各施設種の運営がどのような法律や規定の元に行われているかを把握しました。また、施設ごとの食塩摂取量をまとめた栄養管理報告書を作成し、現状把握と課題発見を行いました。これらの業務からは、データから課題を抽出し、次の施策に繋げるという公衆栄養活動を実践的に学ぶことができました。

課題解決学習では、東近江圏域の健康課題を発見し解決するプロセスをグループワークを通して行い、大学生への望ましい食生活を啓発する資料（スライド）の企画・作成を行いました。課題の解決には事業所などの様々な連携がなければ成り立たないことを学びました。

見学・交流会参加では、日野町での検診結果説明会や健康測定会を見学し、住民への健康促進活動の実態を把握しました。また、食の安心・安全意見交換会や東近江圏域栄養士会交流会に参加し、情報交換や連携の重要性を学びました。

このインターンシップを通して、実際の行政における管理栄養士の職務を学び、多くの気づきを得ることができました。

まず、給食施設指導や資料案作成に携わる中で、施設運営が多岐にわたる法律や規定に基づいていることを学びました。そのため、指導・監督する立場の行政栄養士には、関連法規の正確な知識と理解が不可欠であると痛感いたしました。

次に、現場の課題は教科書通りにいかないケースや新たな課題があることを、特に栄養士交流会で強く感じました。施設種が異なっても共通の課題があることから、他職種と課題を共有し、解決のために最新の情報を取得する大切さを知ることができました。

また、給食施設監査や事業者様との相談の場面から、対話を通して課題の共有や協力関係を築くことの重要性も学びました。

今回の経験で、行政栄養士の仕事の面白さを実感すると同時に、法律知識や課題解決能力の不足も身にしみて知りました。この収穫と明らかにした課題点を活かし、今後の学内外の実習で改善に努め、管理栄養士として必要なコミュニケーションスキルや専門知識の獲得を目指してまいります。

アンケート結果・・・

このアンケートは2025年度インターンシップⅠA・ⅠBに参加した学生と参加企業を対象に行いました。

☆参加学生へのアンケート結果

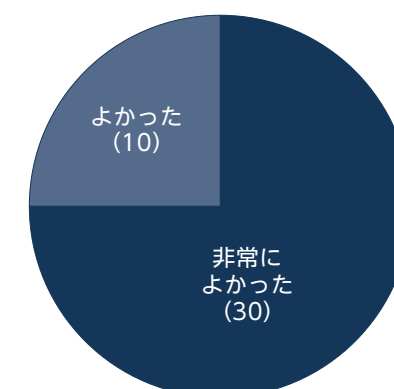
1 参加動機（複数回答可）

1. 職業観を養うため	18
2. 自分の職業適性を知るため	11
3. 将来の就職先として希望している業界・職種を実体験するため	8
4. 職業社会において必要な力を養うため	2
5. 大学で学んだことを実際の社会で体験するため	1
6. その他	0
	40

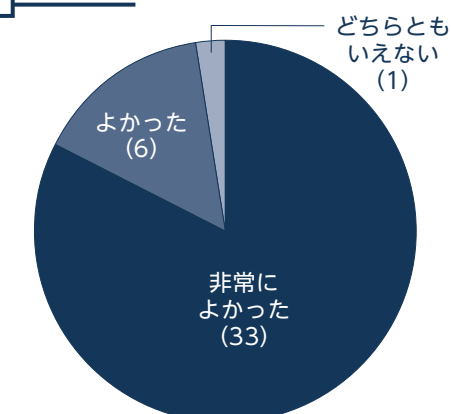
2 実習先の選択基準

1. 就職を希望する業界または職種で選んだ	26
2. 実習内容で選んだ	8
3. 有名企業・団体だから	3
4. 就業体験できればどこでもよかった	1
5. その他	2
	40

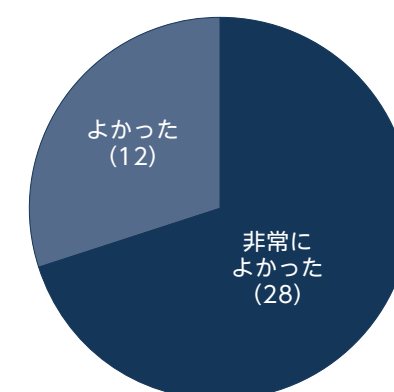
3 インターンシップに参加して



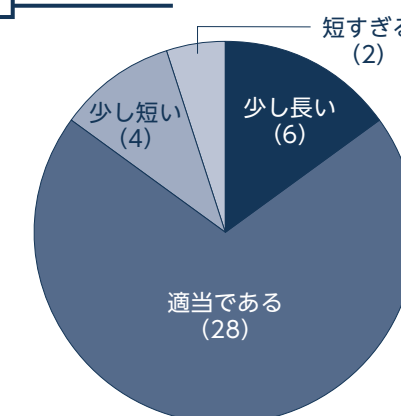
4 実習先



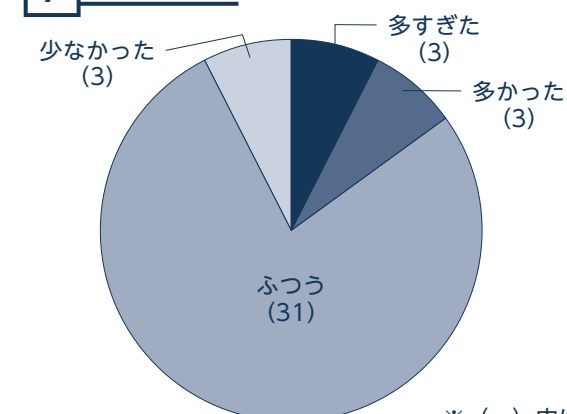
5 実習内容



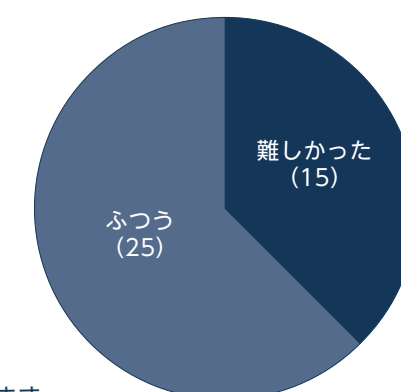
6 実習日数



7 仕事の量

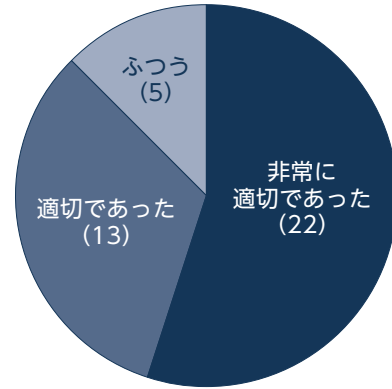


8 仕事の難易度

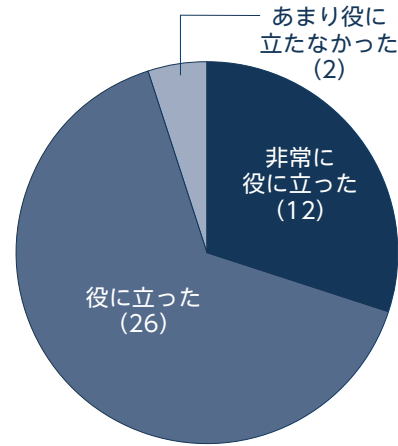


※（ ）内は人数を表しています。

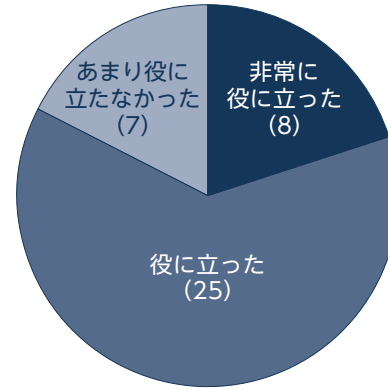
9 実習における指導



10 実習簿

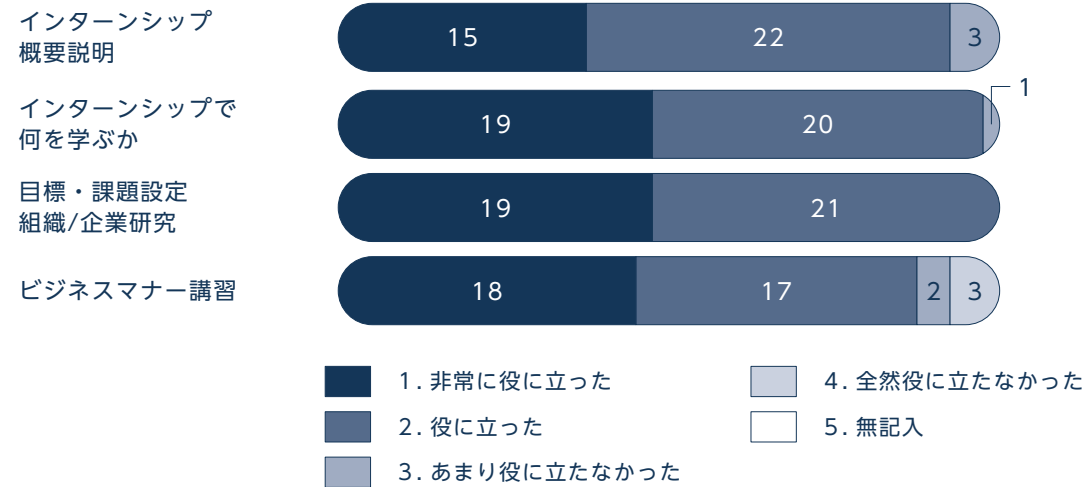


11 事前課題

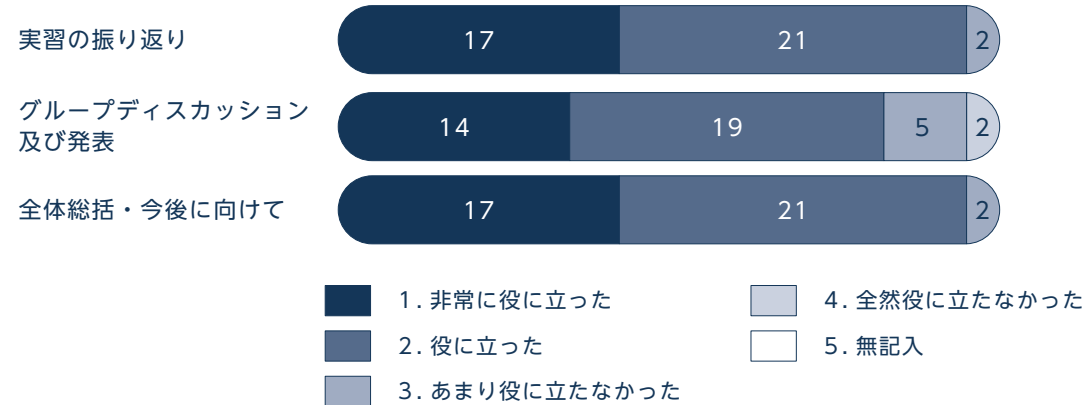


※（ ）内は人数を表しています。

12 事前指導講義（該当するものに○印をつけてください）

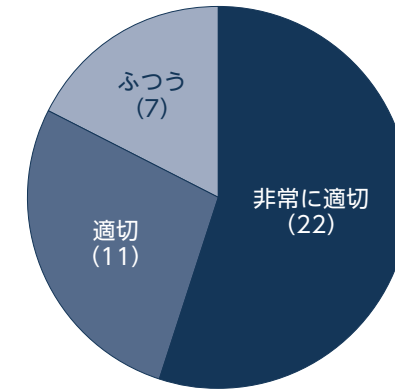


13 事後指導講義（該当するものに○印をつけてください）



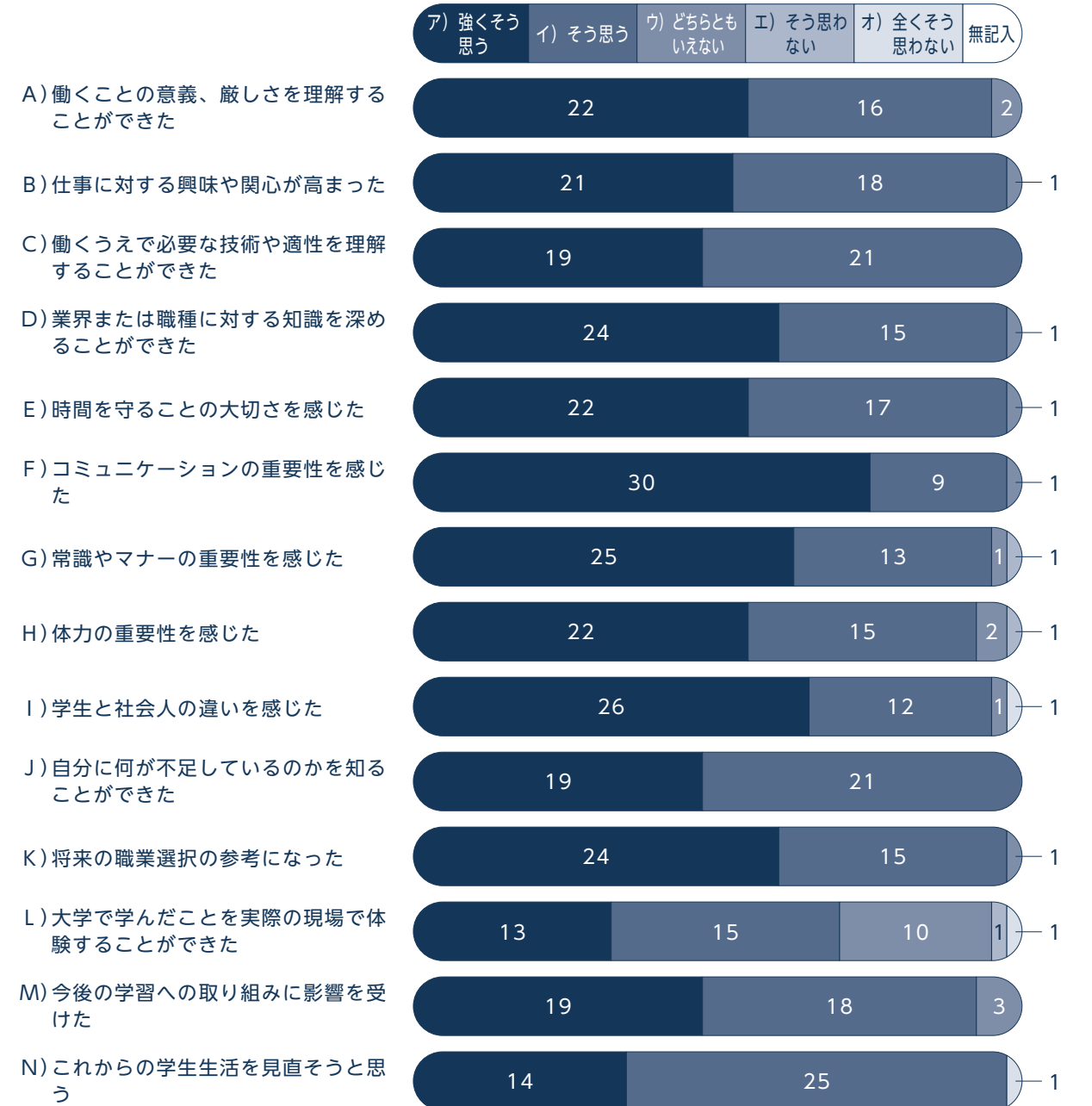
※グラフ内の数字は人数を表しています。

14 インターンシップ期間中（事前指導講義～実習～事後指導講義も含む）の大学のフォロー体制について



※（ ）内は人数を表しています。

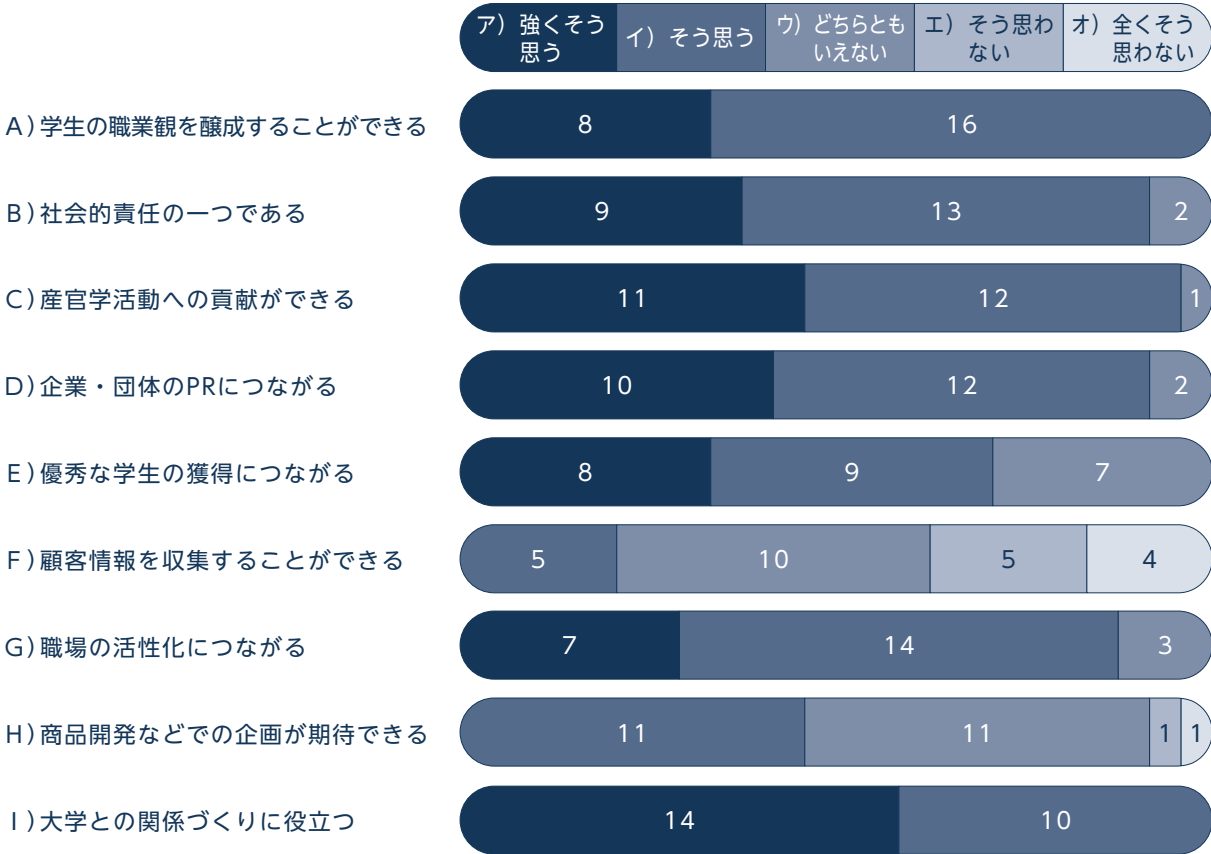
15 次のA～Nの項目について右欄の該当するものに○印をつけてください



※グラフ内の数字は人数を表しています。

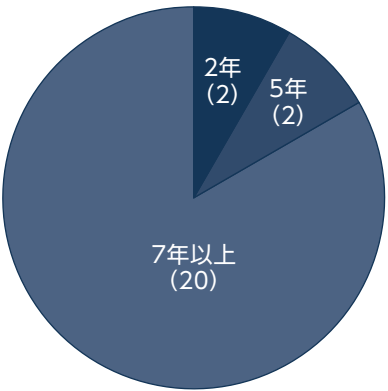
☆参加いただいた企業（24社）へのアンケート結果

1 インターンシップに対してどのようにお考えですか

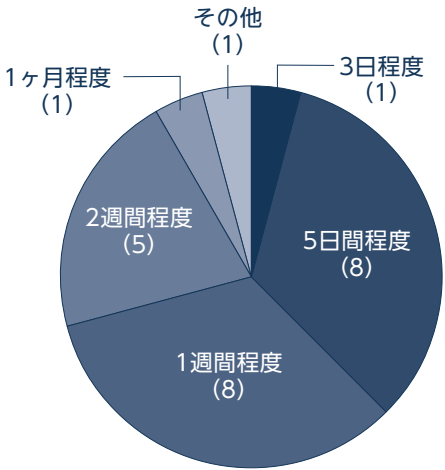


※グラフ内の数字は人数を表しています。

2 インターンシップ実習生の受け入れは何年目ですか（本学以外の学生の受け入れを含む）



3 今年度のインターンシップをふまえて、実習日数はどの程度が望ましいですか

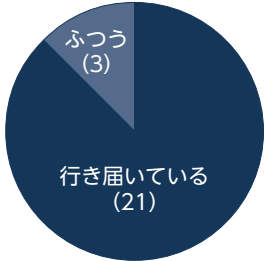


※（ ）内は人数を表しています。

4 貴社・貴団体がインターンシップを実施される上での、課題・問題点としてあてはまるものがあれば選択してください（複数回答可）

1. 受け入れのためのコスト負担	2
2. 受け入れのための人的、時間的負担	13
3. 受け入れのノウハウ不足	4
4. 社内受け入れ現場での理解	4
5. 実習部署の設定	6
6. 実習内容の設定	7
7. アルバイトとの差異	2
8. 書類等手続き等の煩雑さ	2
9. 事故発生時の対応	2
10. その他	3
	45

6 本学での事前指導についてお聞かせください

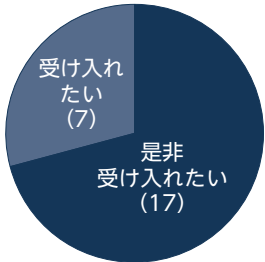


8 実習参加にあたり、学生に望まれることは何ですか（複数回答可）

1. 参加への目的意識	20
2. 取り組み意欲	20
3. 基本的なマナーの習得	8
4. スキル修得（PC、語学等）	1
5. 事前学習（受入企業、業界研究等）	4
6. その他	1
	54

10 次年度の受け入れについてお聞かせください

1) 次年度の受け入れ可否について

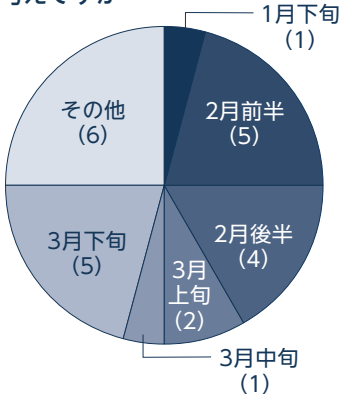


2) 受入期間（日数）を変更される予定はございますか

1. 変更する予定はない	0
2. 変更する予定である	0
3. 未定	0
	0

5 事前準備についてお聞かせください

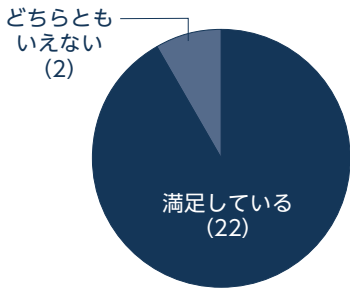
1) 本学からの受け入れ依頼時期について、いつ頃が適当とお考えですか



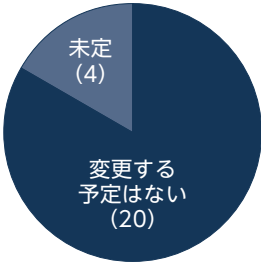
7 受け入れていただいた学生の実習態度はいかがでしたか

1. 非常に意欲的であった	22
2. 意欲的であった	2
3. ふつう	0
4. その他	0
	24

9 今年度のインターンシップは満足いくものとなりましたか



3) 2026年度のインターンシップの時期を、現行の夏期休暇中から変更される予定はございますか



※（ ）内は人数を表しています。

2026年2月発行

編集・発行 同志社女子大学 キャリア支援部キャリア支援課